第22回　研究大会

報告書

アトラクション　６年生による吉見太鼓

あとがき

大会テーマ「世界の中の日本　学び会う国際理解教育」を前提とした平成２６年度第２２回岡山県国際理解教育研究大会を無事に開催することができました。

本研究会は，県下に国際理解教育を広めることをめざして研究会を開催していますが，今世界に目を向けると，宗教問題を発端にした「文明の衝突」が大きな問題となっています。平成２７年の年明け早々に飛び込んできた「パリ週刊紙銃撃テロ事件」。風刺週刊紙が発行した風刺画がイスラム過激派を刺激し，暴漢によって１２人の命が奪われたのです。これに対し，各国要人を交え３７０万人という史上最大の「反テロ集会」が開かれました。自分たちの主張を通すために暴力に訴えることは決してあってはなりません。

「テロへの抗議」や「表現の自由」を求めることは，間違いではありませんし，当然のことです。しかし，私たち日本人からすると，どうしてそうなるのか疑問に思うことがしばしばあるのも事実です。これまで，日本人は肝心なときに自分の意見を主張せず世界各国から非難されたり，誤解を受けたりすることが多くありました。また，日本人独特の思いやりの精神から，それをしなかったこともあったようです。しかし，私たち日本人は，長い歴史の中で培ってきた，私たち自身の文化に根ざした考え方や行動を，今こそ世界に示し広めていくべきではないかと思うのです。世界で起きている様々な問題は，宗教や民族の違いによる「文明の衝突」だと言われます。その解決策において，相手の立場にたつことを忘れ自己主張を繰り返した結果，暴力やテロのような極端な行動を呼び込んでいるのではないでしょうか。

今まさに，お互いの違いを認め，共通点に目を向けて折り合いをつける，日本的な価値観が求められているのです。これは，国際理解教育という以前から私たち日本人が普通に身につけてきた文化です。川東小学校の６年生が演奏してくれた古見太鼓は，友達同士が音を聞きあい，心を一つにしたところに聞いている人を引き込む力がありました。和楽器は，歌う人に音程を合わせると聞いたことがあります。また，武道には残心と言う言葉がありますが，残心とは，技を決めた後も心身ともに油断をしないことです。相手のある場合，卑怯でない，驕らない，相手がある事に感謝するなどの概念を持ったことばです。常に相手意識を持って行動するのが私たち日本人です。

最近の調査で，「生まれ変わるならどの国がいいか？」という質問に対し，日本人の８３％が日本に生まれたいと答えています。また，外資系ホテル予約サイトのまとめによると，世界で宿泊マナーが最も良い国として，日本を選んでいます。それも２位以下を圧倒的な大差で引き離す１位というのです。マンガやアニメ，日本食だけでなく，クールジャパン戦略以前から，日本を再評価するうねりは大きくなる一方です。

経済格差が広がり，大国とか先進国と言われる国まで凋落傾向にあり，我が国も例外ではありません。しかし，私たちの国は世界に誇る歴史と文化を兼ね備えた文化大国であることを決して忘れず国際理解教育を進めていきたいものです。平成２７年度は，備前地区において第２３回国際理解教育研究会が開催される予定です。日本的価値観や日本文化を切り口にした研究が少しでも進むことを強く望んでやみません。

最後になりましたが，本研究大会を開催するにあたり，ご後援いただきました文部科学省，岡山県教育委員会，真庭市をはじめとする津山地区各教育委員会等，多くの関係機関のみな様，本会役員並びに関係諸氏に心から感謝とお礼を申し上げます。

平成２７年１月１４日

奥　山　　仁（津山市立大崎小学校長）

第２２回　岡山県国際理解教育研究大会報告書
発　　行　２０１５（Ｈ２７）年３月２日
発行責任者　岡山県国際理解教育研究会
会長　　鳥居　恭治
事　務　局　岡山市立中央小学校
ＴＥＬ　（086）234-7750

※この研究大会は，ちゅうでん教育振興財団の助成を受けています。

平成２６年度

第２２回岡山県国際理解教育研究大会

開 催 要 項

１　大　会テーマ　「世界の中の日本　学び合う国際理解教育」
～生き生きと自分の思いや考えを表現し，伝え合う児童の育成～

２　期　日　　平成２６年１１月２８日（金）

３　会　場　　岡山県真庭市立川東小学校
〒７１９－３１０４　岡山県真庭市田原１７５
ＴＥＬ０８６７－５２－０１７３
ＦＡＸ０８６７－５２－４０３９

４　主　催　　全国海外子女教育・国際理解教育研究協議会
岡山県国際理解教育研究会

５　後　援　　文部科学省　　岡山県教育委員会　真庭市教育委員会
津山市教育委員会　美作市教育委員会　新庄村教育委員会
鏡野町教育委員会　勝央町教育委員会　奈義町教育委員会
西粟倉村教育委員会　久米南町教育委員会　美咲町教育委員会
鳥取県教育委員会　広島県教育委員会
山口県教育委員会　島根県教育委員会
日本教育公務員弘済会　ちゅうでん教育振興財団

６　日　程

9:15	9:45	10:30	10:40	11:30	11:40	12:25	13:10	14:15	14:25	15:55
受付	公開授業	移動	ｱﾄﾗｸｼｮﾝ 開会行事	移動	授業協議会	昼食	分科会	移動	講演	閉会行事

７　講　演　「世界に羽ばたく人を育てるために」
～こどもを伸ばせる先生を目指して～

藤原修己先生（学校法人美作学園理事長）

８　公開授業　（９：４５～１０：３０）

学年	単元名	場所	授業者
１年 ２年	生活科 「いろいろな国の遊びをしよう」	体育館	難波　三千代 （真庭市立川東小学校教諭） 石川　典恵 （真庭市立川東小学校教諭） 岡　浩史

			（岡山市立岡山後楽館中学校教諭） 岡崎　主馬 （岡山市立津島小学校教諭）
３年	総合的な学習の時間 「食べ物を通して世界を知ろう」	３年教室	牧野　友美 （真庭市立川東小学校教諭）
４年	国語科 「手で食べる　はしで食べる」	４年教室	亀井　真由美 （真庭市立川東小学校教諭）
５年	道徳 「ペルーは泣いている」	５年教室	石田　克久 （真庭市立川東小学校教諭）
６年	社会科 「日本とつながりが深い国々」	６年教室	中島　夏樹 （真庭市立川東小学校教諭） 山根　仁 （美咲町立美咲中央小学校教諭） 志水　賢治 （岡山市立高島小学校教諭） 山口　佳子 （岡山市立清輝小学校教諭）

９　授業協議会　（１１：４０～１２：２５）

部会	指導助言者・司会者	会場
低学年	○指導助言者　三村　秀樹（高梁市立高梁小学校長） ○司会者　　田村　嘉啓（吉備中央町立下竹荘小学校教諭）	家庭科室
中学年	○指導助言者　奥山　　仁（津山市立大崎小学校長） ○司会者　　梶並　裕子（真庭市立川東小学校教頭）	図書室
高学年	○指導助言者　山本　義人（岡山市立御南中学校副校長） ○司会者　　橋本　隆志（岡山市立高島小学校教諭）	理科室

１０　分科会　（１３：１０～１４：１５）

テーマ	題名	発表者	会場
国際理解教育	「世界はひとつ～ちがいを豊かさに～」	田中　紀子教諭 （防府市立桑山中学校）	家庭科室
	「ケニアの孤児院に 智頭のお米を贈る活動に参加して」	広富　隆史教諭 （智頭町立智頭小学校）	
	○コーディネーター　尾羽根　公介（山口県国際教育研究会長）		
	「夢でつながる外国語活動」	太田　壮治教諭 （大竹市立大竹小学校）	

外国語活動	「グローバル社会に生きる 石井型英語教育」	吉平　万里子教諭 （岡山市立石井小学校）	図書室
	○コーディネーター　佐々木　泰治（広島県国際理解教育研究協議会長）		
海外子女教育	「国際化の次代を担う子どもたちの 育成を目指して ～シカゴ補習授業校での取り組み～」	小澤　正則教諭 （松江市立美保関中学校）	理科室
	「国際感覚豊かな児童・生徒の育成 ～ベトナム・ハノイでの ３年間で見たもの～」	小野　剛一教諭 （総社市立総社小学校）	
	○コーディネーター　山口　修司（島根県国際教育研究会長）		

１１　アトラクション　（１０：４０～１０：５５）

古見太鼓
～6年生が，伝統の古見太鼓を演奏します。大太鼓，締太鼓，丸木太鼓
樽太鼓の4種類の太鼓を使った迫力ある演奏をお楽しみください。

１２　その他

○展示

海外日本人学校派遣者が海外から持ち帰った物や写真を展示します。

○日本人学校へのアプローチコーナー　●地図

目　　次

１　中国ブロック大会を終えて（会長挨拶）　・・・・・・・・　１

２　講　演　「世界に羽ばたく人を育てるために」　・・・・・・・・２
　　～こどもを伸ばせる先生を目指して～
　　藤原修己先生（学校法人美作学園理事長）

３　平成２６年度研究課題　・・・・・・・・５

４　公開授業　・・・・・・・・７
　１・２年　生活科　「いろいろな国の遊びをしよう」
　３年　　総合的な学習の時間「食べ物を通して世界を知ろう」
　４年　　国語科「手で食べる　はしで食べる」
　５年　　道徳「ペルーは泣いている」
　６年　　社会科「日本とつながりが深い国々」

５　授業協議会　・・・・・・・・３５
　低学年部会
　中学年部会
　高学年部会
　川東小学校の取組

６　分科会　・・・・・・・・５２
　国際理解教育
　外国語活動
　海外子女教育

７　アトラクション・展示　・・・・・・・・８０
　吉見太鼓・海外日本人学校派遣者が海外から持ち帰った物や写真

８　あとがき　・・・・・・・・９０

中国ブロック大会を終えて

岡山県国際理解教育研究会　会長　鳥居　恭治
（岡山市立江西小学校長）

１１月２８日，真庭市立川東小学校で，第８回全国会外子女教育・国際理解教育研究中国ブロック大会ならびに第２２回岡山県国際理解教育研究会（美作大会）を開催しましたところ，西日本各地より多数の参加を頂き，本当にありがとうございました。

公私多忙の中お越し下さった，真庭市教育委員会学校教育課参事　美若利充様，全国海外子女教育国際理解教育研究協議会監事　松下安男様，ありがとうございました。

講演をお願いいたしました学校法人美作学園理事長　藤原修己様には，「世界に羽ばたく人を育てるために　～子どもを伸ばせる先生を目指して～」と言う演題で講演を頂きました。藤原先生の今までの豊富な経験の中から，次のような言葉が心に残りました。
子どもの輝く時は，いつ。学校とは何か。教え会える学級集団づくり。地域の中の学校に。学校が家庭教育センターに。自分で無駄を行う大切さ。泣き言が言える職場をつくる。教師の居場所づくり・・・・・・

我々教師が取り組む方向を示唆して頂きました。参加者はもとより，現在のそれぞれの学校で実践していきましょう。

今，日本の学生の海外留学が少なくなっている現状があります。しかし，世界はグローバル化の一途を辿っています。現在の子どもたちに求められている生きる力の中に，世界で活躍できる力，自分の夢を実現しようとする力を付ける必要を特に感じます。

小学校からの ALT との交流や，海外の子どものこと生活のことを知ることで，海外に目を向ける子どもを育てていく必要がある。そのためにも海外経験のあるこの会の活躍が必要になると感じています。

会場と公開授業を提供して頂いた川東小学校では，苅田校長先生のご指導の下，全職員で「生き生きと自分の思いや考えを表現し，伝え合う児童の育成～国際理解教育の視点を生かして～」のテーマで研究を進められ，その成果を発表していただました。ありがとうございました。

岡山県国際理解教育研究会としての今年の取り組みも，帰国報告会・子どものための国際理解講座・そしてこの中国ブロック大会と順調に開催できました。

ご発表を頂いた先生方，ご参会の皆様，本研究大会の諸準備や運営にかかわっていただいた先生方，すべての皆様に心よりお礼申し上げます。

講演「世界に羽ばたく人を育てるために」

～こどもを伸ばせる先生をめざして～

学校法人美作学園理事　藤原修己　先生

今日，世界で通用する子どもたちの育成が求められています。美作高校は，オーストラリア・メルボルン近郊にあるエメラルド・セカンダリーカレッジと姉妹校提携しています。３月に美作高校からエメラルド高校へ。９月にはエメラルド高校から美作高校へ３週間程度の短期留学をお互いに行いはじめて１０年が経過しています。帰国した生徒は，この留学によって，すごく変わっていきます。秋田にある国際教養大学では，全てを英語で行っています。私は，イギリスの Nuffield College に，中学校理科教員として１週間いました。“I hear, I know. I see, I remember. I do, I understand.”（孔子の言葉）

政治の世界では，英語が話せるだけではだめで，日本文化を日本語で相手に伝えられる力が求められています。いくら英語が話せても，伝えられる内容がなければどうにもなりません。

さて，私は真庭市に来る時に，２人の引きこもりに会いました。私は，津山市の鶴山塾で，１０年ほど活動してきました。そこは，昭和 59 年に津山市が青少年健全育成事業の一環として，学校生活や家庭生活や社会生活における悩みをもつ子どもや保護者に対して，温かみのある相談，助言，援助を行うことを目的に設置されました。学校教育や社会教育と連携した取り組みにより，公教育の補完並びに進路保障・社会的自立に寄与する役割も担っています。私は教育相談とは，学校教育の裏物だという観点で見ています。

最近，文部科学省からの説明の機会が増えてきています。教育再生に関する施策では，グローバル社会で生き残るためには，知識偏重ではなく，教科横断的な学習が必要ということで，2000 年から総合的な学習の時間が新設され段階的に始められました。しかし，読解力や計算力が低くなっていることから，2011 年度から学習指導要領の改定に伴って，ゆとり教育でも詰め込み教育でもなく，生きる力をはぐくむ教育とされる脱ゆとり教育が始まりました。現在は，総合的な学習の時間の年間授業時数も削減されています。また，学力低下の状況を受けて，全国学力・学習状況調査が，2007 年より日本全国の小中学校の最高学年（小学 6 年生，中学 3 年生）全員を対象として行われています。

次に，大学の新増設についての規

制緩和についてです。文部科学省は，1991 年に大学設置基準を大幅に大綱化しました。これにより，1990 年度には 372 校だった私立大学は 2012 年度には 605 校にまで増えています。しかし，現在は少子化の影響により，毎年１５～６校が学生の募集停止を余儀なくされています。

今，子どもから見て学校とは何でしょうか？保護者の要望は，「個」になってしまっています。教育が，「委託教育」になっていて，委託・加工・販売というような，教育のサービス化が問題となっています。１に笑顔，２にサービス，３・４がなくて５に技術となっているのです。だから，教師は「どうしてこの子は学校に来るのだろう。何で生き生きとしているのだろう。」と見なければならなくなったのです。今や，学校運営ではなくて，学校経営を考えていかなければいけません。全国学力テストで，連続１位を取っている秋田県の学級担任は，教え合える学級集団作りを行っていると話しています。子どもたちが，学級を高め合おうとする集団作りを，どうやって作っていけばよいのでしょうか。

さて，保護者側から教師は，どう見られているのでしょうか。「学級崩壊が原因で，学校に行けなくなった。」と嘆きます。「当たりの先生」「外れの先生」と評価します。そして，「外れ」と言われる先生は，失敗談や若気の至りなど，自分を語れない教師が多いようなのです。また，学校のトップである校長の名前を知らない地域が多くなっています。校長が，地域の実態を知り，経営者とならなければいけません。近年，経済状況の二極化，学力の二極化が問題視されています。「学力の二極化」とは，子どもの学習状況をみると，単に成績上位者と下位者の学力差が激しいだけではなく，一般的な分布で最も多いはずの中間層にあたる者が極めて少なくなっていることを言います。下位で重なっている子どもたちを，誰がどうするのか，学校だけで解決できる問題ではありません。岡山県が提唱した「携帯を９時になったら親に預ける」という取組を，PTA 活動にしなくてはいけません。

かたや家庭教育はどうでしょう。幼稚園では，「先生，先生，先生・・・」と連呼する子ども。家庭で，話を聞いてもらってないのでしょうか。学校が，家庭教育をも受け持っている現状で，子どもを伸ばせる先生を育てることはできません。家庭教育は，スポンジで水を吸うようなものです。それを，学校でも搾っていますが，限界がきています。学校では，親と教師が連携をとっていかなければなりません。しかし，先ほどのような親の考え方を，誰がどう変えられるのでしょうか。現代の教師は，まさに酸欠状態です。多忙で時間的なゆとりがないし，学校パッシングで精神的な疲労もあります。そして，泣き言を言える職場がなくなっています。子どもも親も教師も育っ

ていないわけです。

私は，１５年前に通信制高校を開きました。その多くが，高校を中退した生徒です。どうして高校をやめたのでしょうか。小・中・高，どこでも同じです。一生懸命，まじめ，誠実というようなことだけでは教師としては駄目です。マニュアルを求めてメモをする先生。しかし，どれだけ理解できたかが問題だし，時には無駄を多くすることが，身になることもあります。心の病気の子どもは，生活の病気の子どもが多いのです。自信のない子どもが増えています。夢をもてない子どもが増えています。早く，たくさん，上手にと，スピード・量・質を求める能力主義によるものです。子どもの成長には，縦（偏差値）と横（絶対評価）があります。横の成長つまり幹を太らさなければ，根は持ちません。動作が遅い，そそっかしい，だらしない，気が小さいなど子どもの欠点ばかり指摘する親が多いです。欠点を長所ととらえるような子育てをしないと，子どもは伸びません。しかし，子どもをほめない親が多いのです。子どもは，ほめられたという記憶がないと，自信をもてなくなってしまいます。家庭の教育力は，落ちてしまい，悲哀的な母親と影の薄い父親，リーダーのいないチャンチャン家族，あるいは暴力の連鎖として，父親が母親を蹴り，母親が子どもを蹴り，子どもが家庭に子どもがいなかったら学校で友達を蹴るとなってしまいます。苦しいこと泣き言が言える職場作りこそ，子どもを伸ばせる先生をつくると思います。

岡山県国際理解教育研究会　研究課題

１　研究課題

Ⅰ　多文化理解〈・人間理解（人権）　・多文化理解　・世界の現実理解　〉

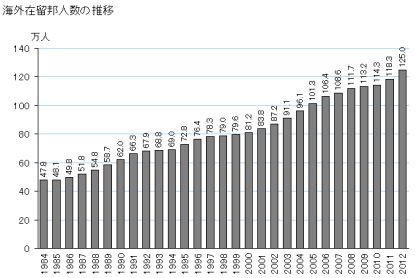
Ⅱ　コミニュケーション〈・コミュニケーション　・外国語教育　〉

２　研究課題設定の背景

（１）　社会からの要請

外務省「海外在留邦人数調査統計」によれば，我が国の領域外に在留している日本人の数は２０１２年に１２５万人と依然増加傾向にある。また，我が国に在留している外国人の数は２０３万人と，２００万人を超えて推移している。いくつかの企業が社内公用語を英語にすると決定したことが大きなニュースとして取り上げられたり，いわゆる「若者の内向き傾向」がとりざたされていたりもしている。

私たちは，すでに「地球規模化=globalization」している国際社会の一員であり，「国際理解教育」なくして我が国の教育は語ることがはできないのである。



資料　外務省「海外在留邦人数調査統計」

（２）　学習指導要領からの要請

中央教育審議会の答申によると，「２１世紀は，新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す，いわゆる『知識基盤社会』の時代である」と言われている。「知識基盤社会」の特質として，「①知識には国境がなく，グローバル化が一層進む，②知識は日進月歩であり，競争と技術革新が絶え間なく生まれる，③知識の進展は旧来のパラダイムの転換を伴うことが多く，幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断が一層重要になる，④性別や年齢を問わず参画することが促進される」などとされている。

そのような「知識基盤社会」を生きる子どもたちが自己責任を果たし，他者と切磋琢磨しつつ一定の役割を果たすためには，基礎的・基本的な知識・技能の習得やそれらを活用して課題を見いだし，解決するための思考力・判断力・

表現力等」が必要であると同時に，世界や我が国社会が「持続可能な発展」を遂げるためには「共存・協力」も必要であるといわれている。

「国境のない知識」「グローバル化」「パラダイムの転換」「共存・協力」などというキーワードは，まさしく「国際理解教育」がめざすものと同一である。

（３） 教育現場からの要請

「生きる力」を培う領域として華々しくデビューした「総合的な学習の時間」であったが，「学校行事・イベントの時間としての扱い」「教師の企画力不足」などと，創設当時の元気はどこに行ってしまったのかという感が否めない。「各教科での知識・技能の習得と総合的な学習の時間の課題解決的な学習や探求学習との間に段階的なつながりが乏しい」との指摘もあり，もう一度「自ら課題を見つけ，自ら学び，自ら考え，主体的に判断し，行動し，よりよく問題を解決する資質や能力」という「生きる力」について考え直すことが求められている。「総合的な学習の時間」の一領域として例示された「国際理解」についても例外ではない。

（４） 岡山県国際理解教育研究会の研究の経緯からの要請

本研究会は，今まで研究課題を「人間理解（人権）」「多文化理解」「世界の現実理解」「コミニュケーション」「外国語教育」という５つの研究課題を掲げて実践を積み重ねてきた。

その結果，「人間理解（人権）」「多文化理解」「世界の現実理解」の３つのテーマには，「違いを認めるとともに，同じ人間として共感をもってお互いの人権を尊重しようとする態度を育成する」という共通点があり，「コミニュケーション」「外国語教育」の２つのテーマには，「自分の意見や存在に自信をもつためには，他から共感を得たり，互いの存在を認め合ったりすることが大切である」という共通点があることが明らかになってきた。

３　研究課題の具体化

前述の背景より，本研究会では，平成２３年度より研究課題を「多文化理解」「コミュニケーション」の２つに絞り，新たな実践に取り組んでいくこととした。

各方面からの要請を，実践を通してより確かなものとしていくことが求められている。

「国際理解教育」は，未来を生きぬく子どもたちを育成するために「自己との対話を重ねつつ，他者や社会，自然や環境と共に生きる，『開かれた個』」の育成をめざしてその具体化を図っていく必要に迫られている。

第１．２学年　生活科学習指導案

平成２６年１１月２８日（金）第２校時　授業者　難波　三千代
石川　典恵
岡　　浩史（岡山市立後楽館中学校）
岡﨑　主馬（岡山市立津島小学校）

１　題材名　　いろいろな国のあそびをしてみよう

２　目　標

・隣の学年の人や，身の回りの人と楽しんでいろいろな遊びをしようとすることができる。【関心・意欲・態度】

・遊び方について正しく聞き取ったり，わかりやすく伝えたりすることができる。【思考・表現】

・日本の昔からの遊びと外国の遊びの似たところや違う所に気付くことができる。【気付き】

３　評価規準

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
日本の昔遊びに関心を持ち，楽しんで遊ぼうとしている。 外国の遊びに関心を持ち，楽しんで遊ぼうとしている。	昔遊びや，外国の遊びのしかたの説明を正しく聞き取り，適切に遊んでいる。 いろいろな遊びのやり方を分かりやすく説明している。 遊びながら周りの人と教え合うなど交流をしている。	日本の昔遊びの良さや，外国の遊びの似ているところや違うところに気付いている。 いろいろな遊びを通して，自分の良さや身近な人の良さに気付いている。

４　指導と評価の計画

＜１年＞　（全１１時間）

次	時	主な学習活動・内容	評価の観点			評価規準及び評価方法
			関	思表	気	
1	1・2	２年生から昔遊びのやり方やコツの説明を聞く。 ２年生と一緒に昔遊びをする。	○			２年生の説明を良く聞き，昔遊びを楽しんでいる。 【評価方法】 観察

	3 ・ 4	各自めあてをつくって，昔遊びを楽しむ。	○		○	上手になりたい遊びをいくつか決めて，楽しんで遊んでいる。 【評価方法】 観察・めあてのカード
2	1	ブラジルの遊びを楽しむ。	○			校長先生の話や説明を良く聞き，ブラジルの遊びを楽しんでいる。 【評価方法】 観察・発表
3	1	タイの遊びを楽しむ。 （本時）	○	○		ゲストティーチャーの話や説明を良く聞き，タイの遊びを楽しんでいる。 【評価方法】 観察・発表
	2	タイの遊びについて振り返る。		○	○	タイの遊びについて感想を出し合ったり，ワークシートにまとめたりする。 【評価方法】 発表・ワークシート
4	1	おうちの人と遊びを楽しむ計画をする。	○			おうちの人と遊ぶ会について話し合う。 【評価方法】 観察・発表
	2 ・ 3	おうちの人といろいろな遊びを楽しむ。	○		○	自分の役割を果たしながら，おうちの人と楽しく遊んでいる。 【評価方法】 観察
	4	おうちの人と遊んだことについて振り返る。		○	○	おうちの人との遊びの会について感想を出し合ったり，ワークシートにまとめたりする。 【評価方法】 発表・ワークシート

＜２年生＞　（全８時間）

次	時	主な学習活動・内容	評価の観点			評価規準及び評価方法
			関	思表	気	
1	1・2	1年生に昔遊びを教えてあげる会の計画や準備をする。	○	○		昔遊びを教えてあげる会について進んで計画や準備をしている。 【評価方法】 発表・観察
	3・4	1年生と一緒に昔遊びをする。	○	○		1年生に昔遊びを教えてあげている。 【評価方法】 観察
2	1	ブラジルの遊びを楽しむ。	○	○		校長先生の話や説明を良く聞き，ブラジルの遊びを楽しんでいる。 【評価方法】 観察・発表
3	1	タイの遊びを楽しむ。（本時）	○	○		ゲストティーチャーの話や説明を良く聞き，タイの遊びを楽しんでいる。 【評価方法】 観察・発表
	2	タイの遊びについて振り返る。		○	○	タイの遊びについて感想を出し合ったり，ワークシートにまとめたりする。 【評価方法】 発表・ワークシート
4	1	他の国の遊びを調べる。	○		○	教師が用意する資料を使って，他の国の遊びを調べている。 【評価方法】 発表・ワークシート

5　指導上の立場

○児童の実態

＜1年生＞

本学級の児童は，男子４名，女子１１名，計１５名である。

友達と協力して仲良く活動できる。相手の方を向いて，話を最後まできちんと聞くことは十分できているとは言えない。また，自分の思いをみんなに聞こえるように大きな声で発表できる児童はまだ少数である。

＜２年生＞

本学級の児童は，男子９名，女子８名，計１７名である。

活発な児童が多く，体験的，活動的な学習を好み真面目に学習に取り組むことができる。しかし，相手の説明を正しく聞き取ったり，相手を意識して自分の考えを伝えたりする力はまだ十分ではない児童が多い。

○題材について

本題材は１年生生活科の「みんないっしょに」の発展である「おうちの人と昔の遊びをしてみよう」をもとに構成したものである。

本校は本年度，国際理解教育に取り組んでいる。１，２年生も学校生活の中で少しずつ世界のことに興味・関心を持つようになりつつある。そこで，児童の好きな「遊び」に焦点を当てて，日本の昔からの遊びや外国の遊びを体験する構成にした。

いろいろな遊びを通して日本や世界の似たところや，違うところに気付いていくと思われる。そして自国の良さを知ったり，他国への関心を高めたりするきっかけになることができると考える。

また，説明をしたり聞いたりするコミュニケーション力や人と関わる力を育てることができる学習になるように構成した。

○研究主題との関連

本校の研究テーマ

「生き生きと自分の思いや考えを表現し，伝え合う児童の育成」

～国際理解教育の視点を生かして～

この研究テーマにせまるために，次のような手立てで支援していく。

・ゲストティーチャーと対話ができるように，導入部分でタイについての楽しい話をしていただき，親近感を抱いたり興味が高まったりできるようにする。
・１年生と２年生でペアになりタイの遊びコーナーを回らせる。二人で相談したり教え合ったりできる場になるようにと考えている。
・授業の最後に遊んだことについて振り返り，発表させる。相手を意識した姿勢や声の大きさなどにも気をつけさせたい。

＜国際理解教育の視点から＞

①自分や相手のことを知り，お互いの違いや良さを理解させる。

本単元では日本の昔遊びや世界の遊びを体験するという活動を通して，自国と他国の遊びの類似点や相違点に気付くことができる。そして，自分とは違う人や事柄に関心を持ったり，それぞれの良さを理解しようとする素地を培うことができる。

また，身近なことの学習は学年が上がるにつれて広域化され，時間軸が広がるので国際理解教育の基礎となる重要な要素であると考え大切に学習させたい。

②人の話をしっかり聞いて，自分の考えをもたせる。

本単元では，普段の単学級での担任との授業と異なり，たくさんの人と関わる構成になっている。1 年生にとっては 2 年生，校長先生，ゲストティーチャー，おうちの人・・・という人と学習活動を行う中，しっかり話を聞き取らなくてはならない場面が多い。2 年生も然りである。児童にとって，「遊び」という魅力的な学習活動であるため，しっかり話を聞くことをがんばることができるよう，「上手な聞き方」の学習を想起させながら取り組ませたい。

③聞きたくなる，話したくなる授業をする。

本時ではゲストティーチャーお二人にタイの遊びを中心に話をしていただく。題材も児童の興味関心を引く物であるが，担任とは違った指導者ということで，さらに意欲を持って学習に参加すると考えられる。

当日まで，どこの国の遊びを学習するかは秘密にしておくが，「タイ」について少しは予備知識があった方がさらに関心を高めて活動できると考え，１１月には給食の「世界のメニュー」でタイ料理を，定期的に出題される「世界のクイズ」でもタイを取り上げてもらうようにした。

また，本時の「振り返り」の活動では，ゲストティーチャーに発問をしていただくことによって，児童の話す意欲を高められると考えている。

会場図

ホワイトボード

最初の整列

縦に６列に並ぶ

なわ

豆すくい

輪ゴムとばし

土鍋たたき

マークゲップ

竹ポックリ

6　本時案

目　標	タイの遊びを知り，日本の遊びと比較しながら，楽しむことができる。	
学　習　活　動	・児童の主な反応　　＊指導上の留意点	評　　価
1　タイについて知り，本時のめあてを確認する。 〈5分〉	＊タイの衣装を着たり，国旗や地図，写真を見せたりすることで，児童の気持ちを和らげる。また，タイに対する興味をもたせる。 タイの遊びにチャレンジしよう。	
2　タイの遊びのやり方を知り，実際にやってみる。 〈２５分〉	＊事前に場作りをしておいて，分かりやすく短時間で説明を行う。また，簡単な説明を絵とともに掲示しておき，活動しやすくさせる。 ＊児童を１・２年混合の６グループに分けておき，遊びのローテーションを決めておく。１年生と２年生が協力して遊べるように，２年生にリーダーとしての役割を話しておく。 ＊全体を大きく２つの遊びに分け，遊びの支援の担当を決めておく。 ＊１つの遊びにつき４分程度とする。 ＊児童に声をかけながら回り，次の活動に向けて話しやすい雰囲気作りをしておく。 ＊遊びは次の６種類とする。 ① マークゲップ（石のお手玉） ② ピッターティーモー（土鍋たたき） ③ イータック（豆すくい） ④ パオゴップ（輪ゴムとばし） ⑤ ココナッツポックリ ⑥ ナームクンナームロン ・楽しいな。 ・難しいな。 ・同じような遊びをしたことがあるなあ。	◇タイの遊びを知り，意欲的に活動しているか。 ◇友達と仲良く活動しているか。
3　体験した遊びについて話し合う。 〈１０分〉	＊日本の遊びと比較した意見を述べた児童がいたら賞賛する。 ＊もし，比較が出ない場合は，似ている遊びがないか，考えさせる。 ・楽しかったです。 ・昔遊びのお手玉と似ている遊びがありました。 ・バングラデシュの遊びと同じような遊びがありました。 ・ココナッツポックリと竹ポックリが同じでした。 ・竹ポックリの代わりにココナッツでもできるんだなあと思いました。 ・輪ゴムを吹いて飛ばすのが難しかったです。 ＊発表するときの声の大きさや体の向き，話の聞き方にも気をつけさせる。	◇タイの遊びと日本の遊びを比べることができたか。 ◇みんなに分かりやすく自分の考えを伝えたり，相手の方を見て発表を聞いたりできたか。
4　まとめをする。	＊他国の遊びを十分楽しむことができたことを認め，今後の活動の意欲につなげさせる。	

○　準備物

・　ござまたはブルーシート

・　おはじきか石，バケツ，新聞紙で作った棒，あずき，画用紙，輪ゴム，竹ぽっくり，長縄

・　遊びのコーナーのカード，遊び方の絵やイラスト

第３学年　総合的な学習の時間　学習指導案

平成２６年１１月２８日（金）　２校時　授業者　牧野　友美

１　単元名　　「食べ物を通して世界を知ろう」

２　単元設定の理由

今年度，本校では国際理解教育について力を入れている。１学期はバングラデシュ出身の留学生との交流や世界各国を旅行している方の体験記などをお聞きすることがあった。また，校内でも国旗のクイズや世界の子どものクイズなどに取り組み，世界にはたくさんの国があり，いろいろな文化があることを知る機会を設定してきた。次第に児童は，世界の国について興味関心をもちはじめ，特に他の国の食文化についていろいろ調べたいという思いがわいてきた。そこで,「食べ物を通して世界を知ろう」という課題を設定し，友だちと協同して課題を解決していく力をつけさせたいと考えた。

児童は，普段家庭や学校給食で様々な食材で様々な料理を食べている。食べるということは生活から切り離せないことであり,食べ物について調べることは３年生の児童にとって扱いやすく馴染みやすい。しかし，自分たちが食べている食材がどんなものかどこからきているのかを知っている児童は少ない。世界には，日本では食べないものを食べていることがあったり，反対に日本では食べていても外国では食べないものがあったりすることもある。食材や料理などの食文化を知ることで日本と世界の文化を知ることに発展し，それぞれの国のよさや違いに気づくことができると考える。

本単元では，まず社会科の「店ではたらく人びとの仕事」での学習で地域のお店へ見学に行く。そこでお店で売っている食料品にどのようなものがあり，どこから来ているのか調べる。ここで日本だけでなく様々な国から食料が来ていることに気づかせたい。調べた国の中からいくつかの国を選び，その国の有名な食べものや料理，文化について調べさせる。３年生は総合的な学習に初めて取り組むので，今後の学習につなげるためにも情報の収集方法やまとめ・表現の仕方について教師がいくつか示していきながら調べる力をつけたい。本やインターネット，インタビュー，リサーチなどの方法を示していく。しかし,教師が示した方法以外でも児童が自主的に調べ学習ができるように環境の支援をしていきたい。調べる最中には，必ず他のグループと情報交換する時間を設け，活動の最後には，調べたことを大きなポスターとしてまとめ，発表させたい。その中で日本と外国の文化の違いや他国の文化を知る機会にしたい。

３　単元の目標

世界の国の食べものを調べていく中で,世界にはたくさんの食べものや料理,文化があることを知り，調べたことを他学年に分かりやすく発表することができる。

４　単元の評価規準

評価の観点	関心・意欲・態度 【態】	課題設定力 【課】	課題探求力 【探】	表現力 【表】	生活に生かす力 【生】
評価規準	世界の国の食べものについて関心をもち，調べようとする。	どの国の食べものを調べるのか自分で決定し，自分の思いや考えをもつことができる。	調べる方法を考え，何を伝えたいか考えながら計画をたてて調べることができる。	調べて分かったことや考えたことを分かりやすく図や表を使ってまとめ，発表することができる。	世界の国の食べものや文化について調べたことを自分の生活に取り入れることができる。

5　指導と評価の計画（全１８時間）

		小単元名	時	主な学習活動	評価規準及び評価方法	
課題の設定	1	世界の国旗を知ろう。	1	世界の国旗についてクイズ形式で答え，その国の食べものについて知る。	【態】	世界の国旗について興味をもち，クイズに答えたり話を聞こうとしたりしている。
	2	バングラデシュのことを知ろう。	1	バングラデシュ出身の青年の話を聞き，バングラデシュについて（文字，言葉，衣装）知る。	【態】	バングラデシュや他国の文化について興味をもつことができる。
	3	世界の国について知ろう。	1	世界中を旅してきた中村さんの体験記を聞き，世界の国の文化を知る。	【態】	体験記を聞く中で疑問に思ったことや初めて知ったことを手紙に書いて表現することができる。
情報の収集	4	世界の国の食べものを調べよう。	2	① 本やインターネットを使って食べものについて調べる。 ② 家の人や外国に行ったことのある人にインタビューをする。	【課】 【探】	① 調べる方法を考え必要な情報を取り出しまとめている. ② 家の人などにインタビューをすることができる。 【評価方法】 観察・メモ
	5	食べものについて調べたことをまとめよう。	3	食べものについて調べたことをどのようにまとめるかグループごとに考える。まとめたことを発表する。	【表】	食べものについて調べたことを工夫してまとめている。 【評価方法】 観察・制作物
	6	世界の国のおすすめを調べよう。	2	食べもの以外でおすすめしたいところを自分たちで考え，調べることができる。	【探】	食べもの以外のこと（人口，国旗，形など）について何を調べるか考え，本やインターネットを使って調べることができる。 【評価方法】 観察・ワークシート
まとめ・表現	7	調べたことをまとめてポスターを作ろう。	3	① ②調べたことをどのようにまとめるか話し合い,ポスターを作る。 ③ 途中経過のものをそれぞれのグループで交流し,助言をし合う。	【探】 【表】	① ②分かりやすくまとめる方法を話し合い，ポスターにまとめている。 ② 他のグループのまとめ方を知りよいところを取り入れ追加・訂正しながらまとめている。 【評価方法】

						観察・制作物
	8	ポスターを発表し合い，よりよいポスターにしよう。（本時･･･３／３時間）	3	① ②③まとめたものをグループ内でミニ発表する。	【表】	グループで役割を決め分担しながら発表している。よいところと改善するところを話し合うことができる。 【評価方法】 観察・メモ
		２年生に向けてポスターセッションを開こう。	1	２年生にポスターセッションを開く。		改善点を踏まえながら２年生に分かりやすく発表している。 【評価方法】 観察・発表
	9	調べたことを振り返ろう。	1	全体を振り返り，調べる前と後でどのような知識や考えをもつことができたか交流する。	【生】	学習のふり返りを自分の言葉や文章にして表している。 【評価方法】 観察・まとめカード

６　指導上の立場

○児童の実態

本学級の児童は男子８名，女子１０名と特別支援学級に在籍している男子１名の計１９名である。今まで，総合的な学習の時間には世界の国についてゲストティーチャーや教師の話を聞いて知るという活動を行ってきた。特に，中南米の旅行体験記を聞く授業では，ネズミを食べる風習があることに驚き，日本ではあり得ないが世界ではこのような文化があることに気づき，もっと調べてみたいという意欲を持つことができた。しかし，調べ学習については，経験が少ない上にどのような方法で調べたらよいか知っておらず，調べたことをまとめることについても必要な情報が何でどのようにまとめたらよいのか分かっていないと思われる。発表や話し合いについても相手に伝わるように大事なことを話すことや話を聞いて自分の考えをもったり伝えたりすることは不十分である。本単元では，これらの課題の中でも，調べる力，まとめたことを分かりやすく発表する力を身に付けさせたい。

○単元の展開

① 情報の収集

食べものを調べる段階では，どのように調べていくかを自分たちで考えさせたい。社会科でインタビューやアンケートの方法について経験しているのでそれらを使うことに気づかせたい。また，本やインターネットで調べることも教えていく。インターネットは，大量の情報があるので今回は教師の用意したサイトで調べさせる。

調べたことをまとめる活動では，まとめる方法について児童に考えさせたい。児童は，経験から模造紙にまとめることや新聞に書くという方法を挙げると思われる。それらの方法以外にも紙芝居，劇，パネルなどさまざまな方法があることを伝えたい。本単元では，大きな掲示板シートを用意し，それに調べた国の食べものや人口，国の形，国旗，文化などをポスター形式でまとめさせたい。

② 表現

話し合ったり，まとめたことを発表したりする活動では，話し手と聞き手に分かれてポイントを絞って話し合わせる。本校の研究テーマとの関わりもあり，最も重視したい活動である。話し手の時には，小さな声でぼそぼそと話す傾向があるので，はっきりと伝わる声で話す練習を継続的に取り組み

たい。聞き手の時には，話し手の言っていることを理解しながら聞くことが課題であり，必要に応じて，メモを取らせ質問や感想を述べるようにさせたい。話し合いの時間は，どの学習時間でも取り入れ，話し合いがいつでもできる状態にしていきたい。

○研究主題との関連

本校の研究テーマ

「生き生きと自分の思いや考えを表現し，伝え合う児童の育成」

～国際理解教育の視点を生かして～

この研究テーマにせまるために，次のような手立てで支援していく。

・安心して自分の思いや考えを伝えることができ，話し合いを活発に進めるために，人の話を最後まできちんと聞くことを意識させる。そのために，メモ用紙を与え大事なことを箇条書きさせる。
・子ども同士で話し合いが進められるように，司会者やメモを取る人には話形やメモ項目のマニュアルを与え，いつでも見ながら活動できる状態にしておく。
・話し合いがしやすいように，机の向きはコの字型にする。

〈国際理解教育の視点から〉

① 自分や相手のことを知り，お互いの違いやよさを理解させる。

自分の調べたいことを友だちと共有したり，協力して調べたりする活動を単元を通して設定している。自分がその国の何が好きで何を調べたいのかを伝えたり，友だちが何について調べているのかを知ったりする中で自分や友だちがどんな考えをもっているのかに気づくことができると考える。さらに，お互いの考えのよさや違いにも気づかせたい。

② 人の話をしっかり聞いて，自分の考えをもたせる。

話し合いの時間をどの活動でも３～１０分程度取り入れ，ペアやグループ，学級全体に意見を広げていきたい。聞くときには，相手の方に体を向けて最後まで聞き取ることを徹底するために，相づちをうったり，簡単なメモを取ったりして話に集中できるようにさせたい。

③ 聞きたくなる，話したくなる授業をする。

自分たちが興味のある食べものについて題材にしているので，意欲をもって取り組むことができると考える。調べたことをポスターという形でまとめ，学級内や２年生に紹介することで目的意識をもつことができ，やる気も高まると考える。

７　本時案　　（第８小単元　第３時）

（１） 本時の目標

世界の国の食べものや文化について調べ，まとめたことをグループで発表し，よりよい発表になるようによい点や改善点を伝え合うことができる。

（２） 展開

学習活動	・児童の主な反応　＊指導上の留意点	学習評価
１．本時のめあてを知り，発表時に気をつけることの確認をする。	よりよい発表になるようによいところや直した方がよいところを話し合おう。 ＊本時は，２年生への発表会を開くためにグループごとにミニ発表をすることを伝える。 ＊発表する人と聞く人の気をつけることを確認する。	

	○発表するときに気をつけること ・聞き取りやすい声ではっきりと話す。 ・一番遠くの人に向かって話す。 ・短い文章で話す。 ○聞くときに気をつけること ・だまって最後まで聞く。 ・おもしろいと思ったことをメモに取る。 ・質問や感想は話し終わってからする。	
２．調べた国の食べものや文化を紹介する。	＊１グループ５分ずつ（３グループ）で調べてきたことを発表する。発表時には，自分たちで作ったパンフレットを黒板に掲示して発表させる。 ＊聞いている人はよいところや質問したいところ，直した方がよいところをメモに簡単に取りながら聞くようにする。 ＊２年生への発表を意識して，２年生に分かるように話しているか，見やすいポスターだったか，行ってみたいと思える内容だったかの３つの視点を示して聞くようにする。△（もう少し），○（よい），◎（とてもよい）で評価する。	◇発表するときに気をつけることを意識しながら分かりやすく発表している。【表現力】
３．質問や感想，改善点を交流する。	＊メモに取っていることを３つの視点も含めて発表させる。 ○よいところ ・大きな声で聞き取りやすかった。 ・初めて見る文字でおもしろかった。 ・写真がたくさんあって見ていて楽しかった。 ・イラストに絵が塗ってあって見やすかった。 ○質問したいところ ・写真の場所は何というところですか。 ・有名なものは何ですか。 ○直した方がよいところ ・ポスターばかり見ずに２年生の方を見た方がいい。 ・文字が小さくて見えにくいので，大きくした方がいい。 ・色が見えにくいので，濃く塗った方がいい。 ・その国の言葉をもう少し調べた方が分かりやすい。 ＊事前に司会者とメモ（黒板）を取る人を決めておき，子ども同士で話し合いが進められるようにする。	◇聞くときによいところや質問したいところ，直した方がよいところをメモに取りながら聞き，友達に伝えることができている。【表現力】
４．発表の修正をする。	＊友達のアドバイスをもとに，改善できるところを考え，修正していく。 ・ここはこの色で塗ってみよう。 ・もう少し写真を増やそう。 ・写真の説明を書いてみよう。 ＊どこが修正できたか分かるように改善項目にチェックを入れさせる。	

５．学習の振り返りをする。	＊それぞれのグループの発表を聞いて２年生への発表会をするために気をつけることを確認する。 ・２年生の方を見て話す。 ・どこを話しているか指し示しながら話す。 ＊自分の言葉で発表した児童を称揚し，発表会への意欲につなげさせる。	

８　板書計画

めあて
よりよい発表になるようによいところや直した方がよいところを話し合おう。

発表するときに気をつけること
・聞き取りやすい声ではっきりと話す。
・一番遠くの人に向かって話す。
・短い文章で話す。

聞くときに気をつけること
・だまって最後まで聞く。
・おもしろいと思ったことはメモに取る。
・質問や感想は話し終わってからする。

メモに書くこと
◎３つの視点（△，○，◎）
・２年生に分かるように話していたか。
・ポスターは見やすかったか。
・紹介された国に行ってみたいと思ったか。

・発表のよいところ
・質問したいところ
・直した方がよいところ→どうしたらよいか。

6　　本時案（第二次　　第４時）

目標	国別に、はしの使い方や形について読み取ることができる。

学習活動	○主な発問　・児童の主な反応　＊指導上の留意点	◇評価
1　前時の学習内容を振り返る。	＊ 中国で生まれたはしが、近くの国々に広まったことをおさえる。	
2　本時のめあてを確認する。	＊ 単元計画表を示し、本時のめあてを確認する。 **国ごとに、はしの使い方や形について読み取ろう。**	
3　第⑩～⑭段落を音読する。	＊ 立腰を意識した正しい姿勢で音読させる。声の大きさに気を付けてはっきり読むように指導する。	
5　⑩段落の内容を読み取る。	○ はしでご飯を食べる所は、日本以外にどこがありますか。 ・ 韓国、中国、ベトナム、モンゴルなど。 ＊ 地図で場所を確認する。 ＊ 「など」の表現から、他にもはしを使う国があることをおさえる。 ＊ 「その」が指し示す言葉を確認する。 ＊ 国によってはしの使い方や形が違うことをおさえる。	
6　⑪～⑬段落を読み、国ごとに、はしの使い方や形についてまとめる。	＊ 「例えば」の言葉の使い方と、文章のつながりを確認する。 ○ 国ごとに、はしの使い方や形について表にまとめましょう。 ＊ どの国がどの段落に書かれているか確認する。 ＊ はしの使い方や形について分かるところにサイドラインを引いてから表にまとめたらよいことを確認する。 ＊ 初めに韓国の段落を全員で確認しながらまとめ、その後の段落を自分でまとめるようにする。	◇ はしの使い方や形の違いについて正しく読み取ることができたか。
7　班で読み取った内容を話し合う。	○ 表にまとめたことを班の人と話し合いましょう。 ＊ 話し合いの仕方を確認する。 ＊ 話し合いが進みにくい班には、机間指導しながら説明の仕方を助言する。	
8　読み取ったことを発表しまとめる。	○ 表にまとめたことを発表しましょう。 ＊ 読み取った内容を写真で確認しながらまとめていく。 ＊ 国ごとに何人かずつ発表する。 ＊ 実物のはしや道具を見せながら特徴をつかませる。 ＊ はしの使い方や形以外にも、食べ物や生活のしかたの違いについても触れる。 ○ このはしはどこの国の物でしょう。 ・ 韓国です。わけは、金属でできていて、スプーンとペアになっているからです。 ○ この写真はどこの国の物でしょう。 日本です。お膳で食べているからです。	
9　⑭段落を読み、⑧段落の問いの文についてまとめる。	「このように」という言葉に注目させ、⑭段落が⑧段落の問いの文のまとめであることに気づかせる。	
10　本時の学習をふり返っての感想を書き交流する。	＊ 疑問に思ったことや、調べてみたいことについても書いてみるように助言する。 ＊ 書くことが苦手な児童には書くヒントを助言する。 ○ 感想を発表し合いましょう。 ＊ 感想を発表する際は相互指名で発表させる。話している人の方を向いて聞くことを意識させる。	
11　音読をする。	＊ 本時の学習をふり返って全員で音読する。	
12　次時の予告をする。	＊ 単元計画表で次時の学習内容を確認する。	

7　板書計画

11／28

手で食べる、はしで食べる

めあて
国ごとに、はしの使い方や形について読み取ろう。

本文

国	使い方や形など
韓国	
中国やベトナム	
日本	
モンゴル	

まとめ
同じように中国から伝わったはしでも、その使い方や形は国ごとにちがう。

第５学年　道徳学習指導案

平成２６年１１月２８日（金）　第２校時　５年教室　授業者　石田　克久

1. 主題名　世界の人々とつながって　内容項目４－（８）国際理解・親善
2. 資料名　「ペルーは泣いている」（出典：みんなの道徳５年）
3. 指導上の立場

（１）　主題について

科学技術が発達し，地球が狭くなったと言われて久しい。今後，地球環境等の問題もあり，国際関係は相互に強まっていく。そういう中で，世界の人々との国際交流や助け合いが重要なこととなるのは明白である。相互の立場を尊重し合い，文化や伝統を受容し合うことが国際理解・親善の出発点となる。

（２）　児童の実態について

本学級の児童は，男子８名，女子５名の計 13 名である。テレビや雑誌等，日常生活の中で外国人を目にすることはあっても，直接的にふれあう機会はまだまだ少ない。それでも，外国語活動でのＡＬＴとの授業や，バングラデシュの留学生との交流を行ってきた。総合的な学習の時間においては，日本や世界のお米についてグループ毎に課題を設定して調べることで，外国の人々や文化について少しずつではあるが理解を始めている。この単元を通して，親善の心を養うためには，言葉や人種，習慣の違いを超えて外国の人々を理解し，協力することが大切であるということを児童につかませたい。

（３）　資料について

本資料は，バレーボールを通して，日本人監督のアキラとペルーの女子チームの心の揺れ動きを表現している話である。ペルーを世界に通用するチームにしようと考えていたアキラは，日本流の厳しい練習が必要と考える。しかし，習慣の違うペルーでは，選手どころかマスコミにさえ，その厳しい練習は批判され，考え方の違いの壁にぶち当たる。そこで，アキラは，ペルーの歴史や文化，習慣などを受け入れることで，その壁を乗り越え，選手たちと信頼関係を築いていく。

（４）　他領域との関連

これまで国際理解教育の一環として，総合的な学習の時間では，他国の文化を知る場としてバングラデシュの留学生との交流や，世界のお米を使った料理作り，自国の文化を知る場として，茶道や稲作の体験を行ってきた。これらの学習後には，国語科等の時間を活用して，活動の振り返りとなる作文を書いている。また，世界のお米を使った料理作り体験を通して，児童は「日本以外に，米作りをしている国がどれくらいあるのか」「お米を使った料理は世界にどれくらいあるのか」というような疑問を抱いている。総合的な学習の時間では，これらの疑問を，児童自ら調べて解決していく活動を取り入れ，自国の事だけではなく他国の文化を知るきっかけを作っている。

（５）　研究主題との関連

本校の研究テーマ

「生き生きと自分の思いや考えを表現し，伝え合う児童の育成」

～国際理解教育の視点を生かして～

この研究テーマに迫るため，次のような手立てで支援していく。

児童は，自分の思いや考えをノートやワークシートに書き表すことができていても，発表をする場面では消極的になってしまうことが多い。また，発言をしても，単語での発表や教師との一対一でのやり取りで授業が進む場面も多くある。さらに，話を聞きながら大切な所をメモする力もまだ十分についていない。そこで，本時では学習活動の中に少人数での話し合い活動を設定し，自分の考えを言いやすい場を作ったり，友だちの意見を傾聴し良いところをメモしたりする活動を行う。

＜国際理解教育の視点から＞

① 自分や相手のことを知り，お互いの違いやよさを理解させる。

- 自分の考えを整理するためにワークシートに考えを書く時間を設ける。
- ワークシートには自分の考えを書くスペースだけではなく，友達の考えから自分の考えを付け加えたり，新たな考えを発見したりした場合にメモできる欄を設ける。

② 人の話をしっかり聞いて，自分の考えをもたせる。

- 発表者の意見を聞いて，疑問に思う点や共感できる点をワークシートにメモをさせる。
- 話の聞き方として体の向きや目線，相づちなどの聞く姿勢に配慮する。
- 自分の意見と友だち意見が同じでも，「わたしも○○さんと同じ考えで（似ていて）･･･，△△です。」と発表をするようにして，自分の思いや考えをそのままにしないように配慮する。

③ 聞きたくなる，話したくなる授業をする。

- 資料の世界に入り込みやすいようにペルーの街並みや国旗，世界遺産などが写った写真や挿絵，音楽（上を向いて歩こう）などの視聴覚教材を活用する。
- 全体に発言をする前に，自分の考えを伝える場として活動の中に少人数での話し合い活動を設ける。

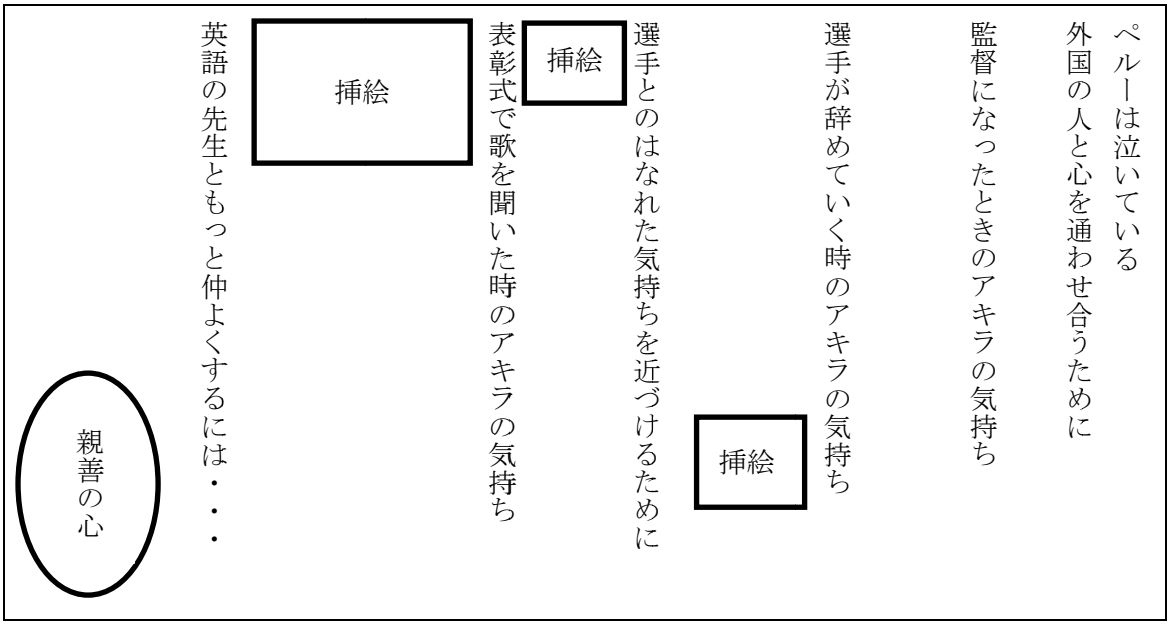
4.　本時のねらい

世界の人々との交流を深め，親善に努めようとする態度を養い，他国の文化や伝統を見習いながら，互いに尊重し合い助けあおうとする心情を育てる。

5. 本時案

学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導・援助の留意点
1 ペルーを知る。	○ ペルーという国を知っていますか。	国旗や街並みの写真を提示する。
2 外国の人と心を通わせ合うために，必要な事を考える。	○ 外国の人と心を通わせ合うには，何が必要だろう。 ・外国の言葉を話せるようにすること。 ・その国のことを知る。	ALT やバングラデシュの留学生との交流をしたときの事を想起させる。
3 資料「ペルーは泣いている」を読んで，アキラの気持ちについて話し合う。	○ ペルーの監督になったとき，アキラはどんな気持ちだっただろう。 ・これから，チームを強くしていこう。 ・大丈夫かな。できるかな…。 ○ ペルーの選手がやめていったとき，アキラはどんな気持ちだっただろう。 ・強いチームにしようと思っているのに･･･。 ・自分の教え方が間違っているのかな。 ◎ アキラは，選手たちと離れた気持ちを近づけるために，どうしたらよいと思ったのだろう。 ・一緒に日本やペルーの歌を歌おう。 ・選手たちにとって父親のような存在になろう。 ○ 表彰式で選手の歌を聞いたとき，アキラはどんな気持ちだったでしょう。 ・監督をやっていてよかったな。 ・自分のやりかたは間違ってなかったんだ。	ワークシートを配り，児童一人ひとりが自分の思いを書けるようにする。 資料を読んでいる途中で「上を向いて歩こう」の一部を流すようにする。
4 ＡＬＴとより仲よくするためには，どうすればよいのかを話し合う。	○ 英語の先生とこれからより仲よくしていくためにはどうすればよいだろう。 ・一緒に遊んだり，話したりする。 ・その国の言葉を勉強する。 ・日本の歌や遊びを教えてあげる。	ワークシートに考えを書いた後，少人数での話し合い活動をする。
5 海外で仕事をしていた方の体験記を紹介する。	○ 海外で仕事をしていた方の体験談を紹介します。	肌の色や人種が違っていても，同じ人間として心と心の通い合いが大切であることをおさえるようにする。

6.　板書計画



＊ペルーの街並みや国旗等の写真は，別で用意する小黒板に掲示をする。

第６学年　社会科学習指導案

平成２６年１１月２８日（金）第２校時 授業者 中島　夏樹
志水　賢治（岡山市立高島小学校）
山口　佳子（岡山市立清輝小学校）
山根　仁　（美咲町立美咲中央小学校）

１　単元名　日本とつながりが深い国々

２　単元の目標

・我が国の国際交流や国際協力の様子について，外国の人々とともに生きていくには，異なる文化や習慣を理解し合うことがたいせつであること，我が国は経済や文化の交流などで世界の国々と深いつながりをもっていることなどを理解できるようにする。

【社会的事象についての知識・理解】

・我が国の国際交流や国際協力の様子について調べる中で，平和を願う日本人として世界の国々の人々とともに生きていくことがたいせつであるという自覚を育てるようにする。

【社会的事象への関心・意欲・態度】

・我が国の国際交流や国際協力の様子について，社会的事象を具体的に調査するとともに，地図や地球儀，年表などの各種の基礎的資料を効果的に活用し，外国の人々の文化や習慣の違いにふれ，その違いを理解し，尊重することが外国の人々とともに生きるうえでたいせつであることを考える力，調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。

【観察・資料活用の技能】

３　単元の評価規準

社会的な事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
我が国の国際交流や国際協力の様子について関心をもち，意欲的に調べることを通して，異なる文化や習慣を理解し合うことや世界平和のたいせつさを考えようとしている。	我が国の国際交流や国際協力の様子について学習問題や予想，学習計画を考え表現し，調べたことをもとに，異なる文化や習慣を理解し合うことがたいせつであると考え，調べたことや考えたことを適切に表現している。	我が国の国際交流や国際協力の様子について，社会的事象を具体的に調査するとともに，地図や地球儀，年表などの各種の基礎的資料を効果的に活用して調べ，調べた過程や結果をノートや作品にまとめている。	我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活の様子や，外国の人々と異なる文化や習慣を理解し合うことをとらえている。

4　指導と評価の計画

次	時	主な学習活動・内容	評価の観点				評価
			関	思	技	知	
1	1・2	自分が行ってみたい外国を紹介するパンフレットをつくる。	○		○		地図や各種資料を活用し，自分が行ってみたい外国について熱心に調べることができる。 【評価方法】パンフレット
	3	外国を紹介するパンフレットについて話し合う	○				世界の国々に関心をもち，旅行計画について積極的に話し合いに参加している。 【評価方法】発言内容，ワークシート
2	1	日本とつながりの深い国々のくらしについて調べる計画を立てる。	○				自分が調べたい国を選び，どのような内容をどのような方法で調べるかを考え,調べる意欲を高めている。 【評価方法】ワークシート
	2・3	中国・スペイン・台湾について調べる。			○	○	各種資料を効果的に活用して，外国について調べ，調べた過程や結果をワークシートにまとめ，選んだ国の生活や文化・習慣について理解を深めることができる。 【評価方法】ワークシート
	4 (本時)	中国・スペイン・台湾について，ゲストティチャーの話を聞く。				○	それぞれの国の話を聞き，日本とのつながりや生活・文化・習慣の類似点や相違点について理解を深めることができる。 【評価方法】発言内容，ワークシート
	5	調べたことを新聞にまとめる。		○			外国について調べたことや考えたことを適切に新聞にまとめることができる。 【評価方法】新聞
	6	調べたことを発表する。		○			外国について調べたことや考えたことを適切に表現できる。 【評価方法】発表の様子

5　指導上の立場

○児童の実態

本学級の児童は，男子１０名，女子１１名，計２１名である。多くの児童は意欲をもって熱心に学習に参加できているが，最後まで学習に集中することができない児童も数名いる。話し合い活動に積極的に参加する児童は限られており，決まった児童の意見を中心に話し合いが進んでしまうことが多い。

社会科では，これまでに「日本の歴史」について学習している。年表や図表などの資料を

活用して調べ学習に取り組み，歴史上の人物や文化遺産について興味関心や理解を深めてきた。また，歴史や伝統を大切にしようとする態度や国を愛する心情を育て，日本人としての自覚をもって国際社会で主体的に生きていくために必要な資質や能力の基礎を培ってきた。

○単元について

本単元では，日本につながりの深い国々について調査したり，地図や地球儀，資料などを活用したりして，調べたことや考えたことを発表する学習である。調べ学習の際には，文献だけによる情報収集に終わらず，実際に外国の品物を見たり，料理を味わったり，ゲストをの話を聞いたりするなどの，体験的な活動を取り入れたい。話し合い活動の際には，児童が互いの考えを伝え合い，自らの考えや集団の考えを発展させることができるよう，言語活動の充実を図ることが大切である。調べたことや考えたことを相手に伝えるための表現方法の工夫も大切にしたい。

○研究主題との関連

本校の研究テーマ

「生き生きと自分の思いや考えを表現し，伝え合う児童の育成」

～国際理解教育の視点を生かして～

この研究テーマにせまるために，次のような手立てで支援していく。

・「何について調べるのか」「何を伝えたいのか」などの課題を意識しながら調べ学習を進めるようにする。
・地図や写真などの資料を効果的に使って,調べたことを的確に伝えられるようにする。
・自分の考えを述べる際には，その根拠となる理由を示すようにする。また，発言する際の適切な声の大きさや速さなどを意識させる。

国際理解教育の視点から

①自分や相手のことを知り，お互いの違いやよさを理解させる。
・日本や自分の調べた国との共通点や相違点を比較しながら発表を聞くようにする。

②人の話をしっかりと聞いて，自分の考えをもたせる。
・大切なことはメモを取りながら聞き，わかったこととともっと知りたいことを意識して，あとで質問ができるようにする。

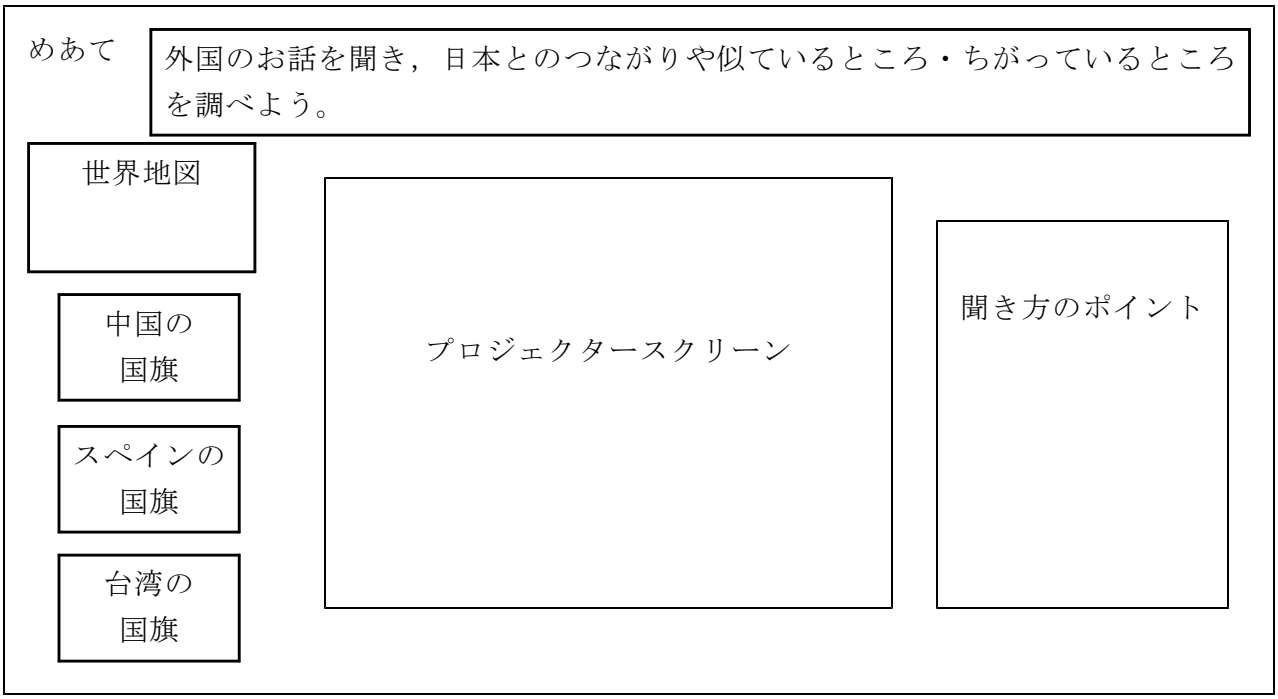
③聞きたくなる，話したくなる授業をする。
・海外の日本人学校に勤務した経験がある方をゲストティーチャーに招き，外国の様子や海外での経験をお話していただくことで，日本とのつながりや自分たちの身近な生活との関連を意識できるようにする。

6　本時案

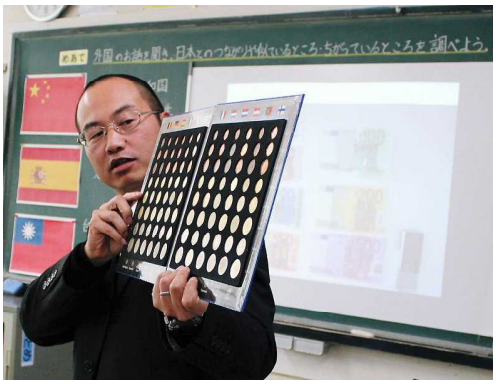
目標	中国・スペイン・台湾の話を聞き，日本とのつながりや生活・文化・習慣の類似点や相違点について理解を深めることができる。	
学習活動	○主な発問　＊指導上の留意点	◇評価
1　本時のめあてをつかむ	外国のお話を聞き，日本とのつながりや似ているところ・ちがっているところを調べよう。 ＊聞き方のポイントを確認する。 ・日本とどんなつながりがあるのかに，注意して聞く。	

	・日本との共通点や相違点を比較しながら聞く。 ・質問ができるように，わかったこととともっと知りたいことを意識しながら聞く。 ・大切なことは，ワークシートにメモをする。	
2　中国について話を聞く。 3　スペインについて話を聞く。 4　台湾について話を聞く。	＊日本とのつながり，類似点や相違点がわかるように話をする。（各国１０分程度） 日本との類似点や相違点 ・学校の様子　・食べ物　遊び　・行事　・ ・服装　・言語　・祝日　　など 日本とのつながり 中国・・・・歴史，衣類や工業製品の輸入，アニメ等の文化 スペイン・・ザビエル，支倉常長 台湾・・・・歴史，学校の制度，ダム，新幹線 ＊様子がよくわかるように写真や品物等の具体物を示して話をする。	◇日本とのつながりや生活・文化・習慣の類似点や相違点について理解を深めることができたか。【知識・理解】
5　学習のふりかえりをする。	○本時の学習の感想を発表しましょう。 ＊外国の話を聞いて思ったこと，わかったことについてグループで意見を出し合わせる。その後，代表に発表させる。	

7　板書計画



中華人民共和国



スペイン

台湾

低学年部会

1　授業者から

授業のねらいとしては，活動を通して友達の良さや自分の良さに気付くことが出来るようにした。タイの遊びと日本の遊びを比べるようにした。また，人の話を聞く，自分の考えを分かりやすく述べるというねらいもあった。子どもたちは，ゲストティーチャーに対して，目を輝かせて聞くことが出来ていた。タイの地図や服など，具体物が多くあったので，分かりやすかった。時間設定に課題があり，活動はしっかりと出来たが，振り返りの時間が，もう少し取れたら良かった。

2　協議

質問　授業協力者との連携について？

回答　打ち合わせを３回行った。先生方の人柄で，授業が成立した。

質問　子どもの反応は予想通りか？

回答　やり方やルール説明がちょうど良かった。子ども達の中から，お互いに説明をして補っていた。

質問　展示物を見学する時，きちんと並び順番を待てていた。普段どんな実態か？

回答　素朴な面と活発な面がある。この研究会に向けて，ゲストティーチャーやクイズなどをしてきたことで興味・関心が高まってきた。真庭の良いところを発見させることで，落ち着きが出てきた。

3　指導助言　三村校長

私は，平成元年にベネズエラのカラカス日本人学校に派遣されていた。最近は，この研究会が，出張として認められたから有り難い。校長として，６年生に「これからのグローバル社会」ということで，国際理解教育の話をしてきている。本校のように，学校をあげて国際理解教育ができることはすばらしい。退職者などを，人材バンクとして活用できるようにしていきたい。子どもたちの授業に対する規律は大変良かった。授業協力者が，タイの民族衣装で登場したことも，子どもたちを引きつけていた。この体験が，将来グローバル化する社会に，対応できる力になっていくのではないか。

中学年部会

1　授業者より

３年生　牧野先生

発表を聞いて，良いところと改善するところを発表しあうことを中心に授業を展開した。ワークシートには，よく記入できていたが，改善点について，内容的な深まりが見られないところがあった。発表のしかたについて，今まで学習したことを生かせていた子どもがいた。６年生のパンフレット作成を参考にした。

４年生　亀井先生

学級は，２３人中男子が１６人。児童の実態から，楽しみがある授業，活動のある授業をめざそうとした。説明文の学習から，単元を貫く言語活動として，最後にポスターを作る活動を考えている。見通しをもった学習ができるように，単元計画をはったり，黒板に教科書の拡大をはったりして，視覚支援をしている。

2　質問と回答

質問「臨機応変な司会者の発言について，これまでの手立てはどのようであったか？」
回答「学級会を何度かしてきている。司会が好きな児童にさせていた。」
質問「ワークシートに表があったが，表を自分で作らせる活動はできなかったか？」
回答「国名は，子どもたちにあげさせようという思いがあった。」
質問「司会のスキルの向上のための手立ては？」
回答「なぞなぞなど楽しい活動を通して，司会のスキルを高めている。」
質問「修正の意見があったが，もう完成している感じのポスターの修正が可能か？」
回答「子どもたちの気持ちを大切にしたいので，修正を行っていきたい。」

3　協議

・司会や記録など，話し合いの形ができていた。
・視点がはっきりしているので，振り返りがしやすい。
・恥ずかしい気持ちをもっている子どもの支援が，適切にできていた。
・箸の実物があって分かりやすかった。

4　指導助言

総合に真剣に取り組んでいる先生方に敬意を払いたい。教育の本質は，「人格の完成」をめざすことである。先生が授業を楽しむことで，子どもも楽しむことが出来る。

高学年部会

１　授業者より

５年生　石田先生

国際理解に関連する題材を取り上げた。ＡＬＴとの関係を考える時間を取りたかったが，話の筋を追い過ぎて，時間が足らなかった。

質問　とてもさわやかな印象で，ワークシートやグループトークなど学校の取組ともマッチしていた。「心を通い合わせるために」というめあてだが，「アキラはどうしたのか？」という発問で，行為に目が向いてしまい，相手を理解し自分を見つめ変容させるという中心価値が，子どもから出なかったが。

回答　初めは，転校生が来たら何をしてあげられるかを，考えていく予定だったが，外国の人を想定して，身近なＡＬＴとの関わりを考えるようにした。いずれにしても，行動だけを考えるのではなく，もっと深めていければ良かった。

質問　今後ＡＬＴと仲良くなるための工夫や思いがあるか？

回答　一緒に遊ぶ，会話をする，日本語を教えるなどのアイデアが出ているので，子どもたちを支援していきたい。

６年生　中島先生

子どもたちは，よく聞いていたが，メモに集中するあまり，うなずきながら聞くことが出来なかった。メモの取り方は，事前に指導していたが，日本とのつながりまでは時間内に書ききれなかった。ゲストティーチャーは，子どもたちが自分で調べただけでは分からないことを話していただいて有り難かった。時間が足らなくなって，振り返りができなかったのが残念だった。

質問　ゲストティーチャーとの打ち合わせは，どんなことに留意したか？

回答　子どもたちが興味をもちやすい内容にした。日本と似ていることと違うところについて話してもらった。３つの国であったが，食べ物や祝日など話す項目をそろえた。台湾は，中国との違いをはっきりさせられるように気をつけた。

質問　実際に何時間くらい単元で使ったか？

回答　計画以外にも，総合の時間を使って調べたりまとめたりした。

質問　行ってみたい国には，どんなものがあったか？

回答　みんながよく知っているような国が出ていた，中国やスペインもあった。

質問　パンフレットはよく書けていた。今後の構想は？

回答　パンフレットは，食べ物や観光名所が中心だった。新聞は，今日の話をもとにして，日本とのつながりの視点を入れて書いていく予定である。

２　指導助言

５・６年生ともに，学習規律が身についており，聞くこと話すことが，しっかり出来ている。真庭市落合中学校区と川東小学校の取組の成果である。６年生のメモの取り方や，５年生のグループでの話し合いも真剣に行われていた。

６年生がアトラクションで見せてくれた古見太鼓や，ゲストティーチャーに習った茶道などは，地域や日本の伝統を受け継ぎ，クラスの団結が深まっている。６年生の授業は，社会科で世界のことを知るだけではなく，日本との結びつきを考えようとしている。時間は超過してしまったが，子どもたちは真剣に取り組めていた。

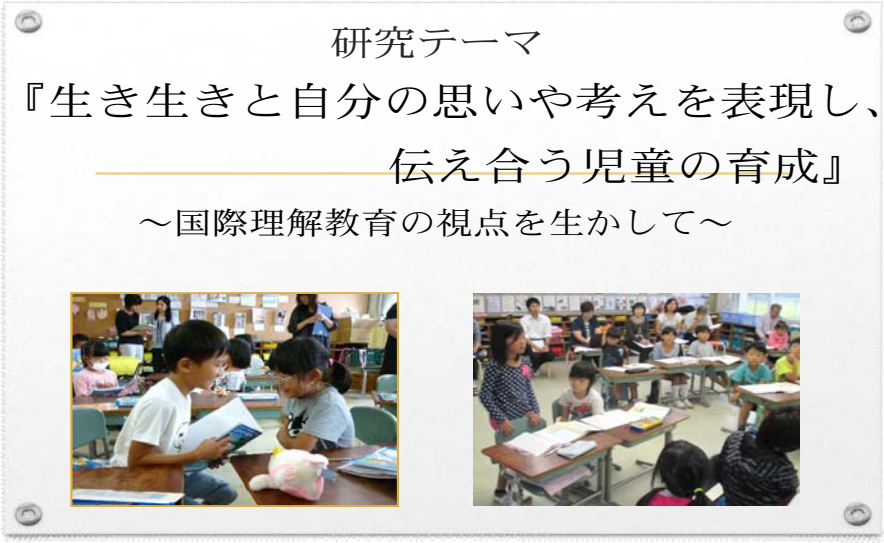
５年生は，先生が初任者ということで，緊張していたようだが，一生懸命さが伝わってきた。段落ごとに場面を区切りながら，資料を読み話の筋をていねいに追っていたため，残念ながら時間が不足し，子どもの考えが引き出せなかった。しかし，グループでの話し合いでは，真剣に意見交換が出来ていた。ＡＬＴとの関わりを考えさせたのは，外国の人に触れ合う機会が少ない地域で，身近な外国の人に目を向けられると考えたからである。行為の裏側にある，「相手を理解しようとする気持ち」を出させれば良かったが，今後ＡＬＴとの関わりへの変化が期待できる。

川東小学校校内研修の取組

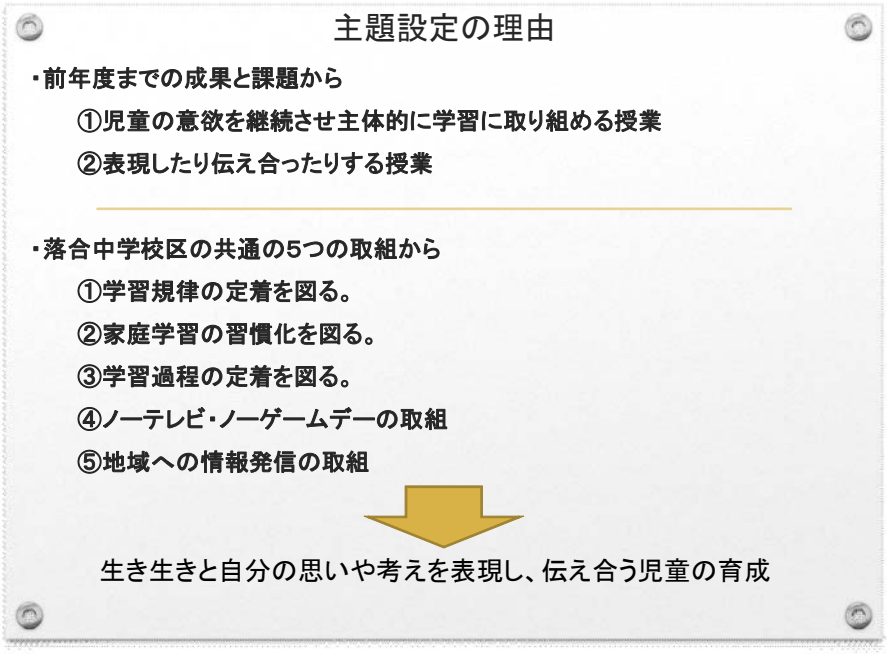
1　児童の実態

全校児童数は１１０名の小規模校。比較的穏やかで，外で遊ぶ子どもが多い。人なつっこくまじめである。表現するのが恥ずかしかったり，深く考える前にあきらめたりする。国語に苦手意識があり，聞く力が弱いことが学力テストの結果から分かった。

2　研究テーマ



3　主題設定の理由



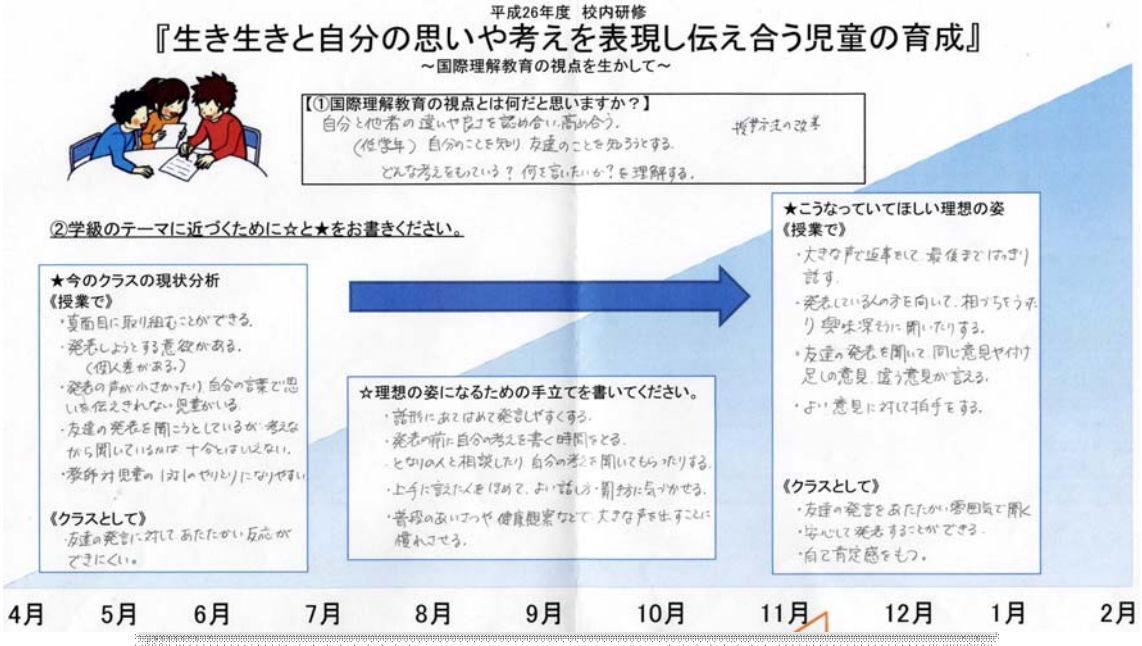
生き生きと自分の思いや考えを表現し，伝え合う児童の育成

↓

◎生き生きと表現したり伝え合ったりする授業を，どう組み立てるか

①話し合い活動や自己表現の場のある授業づくり

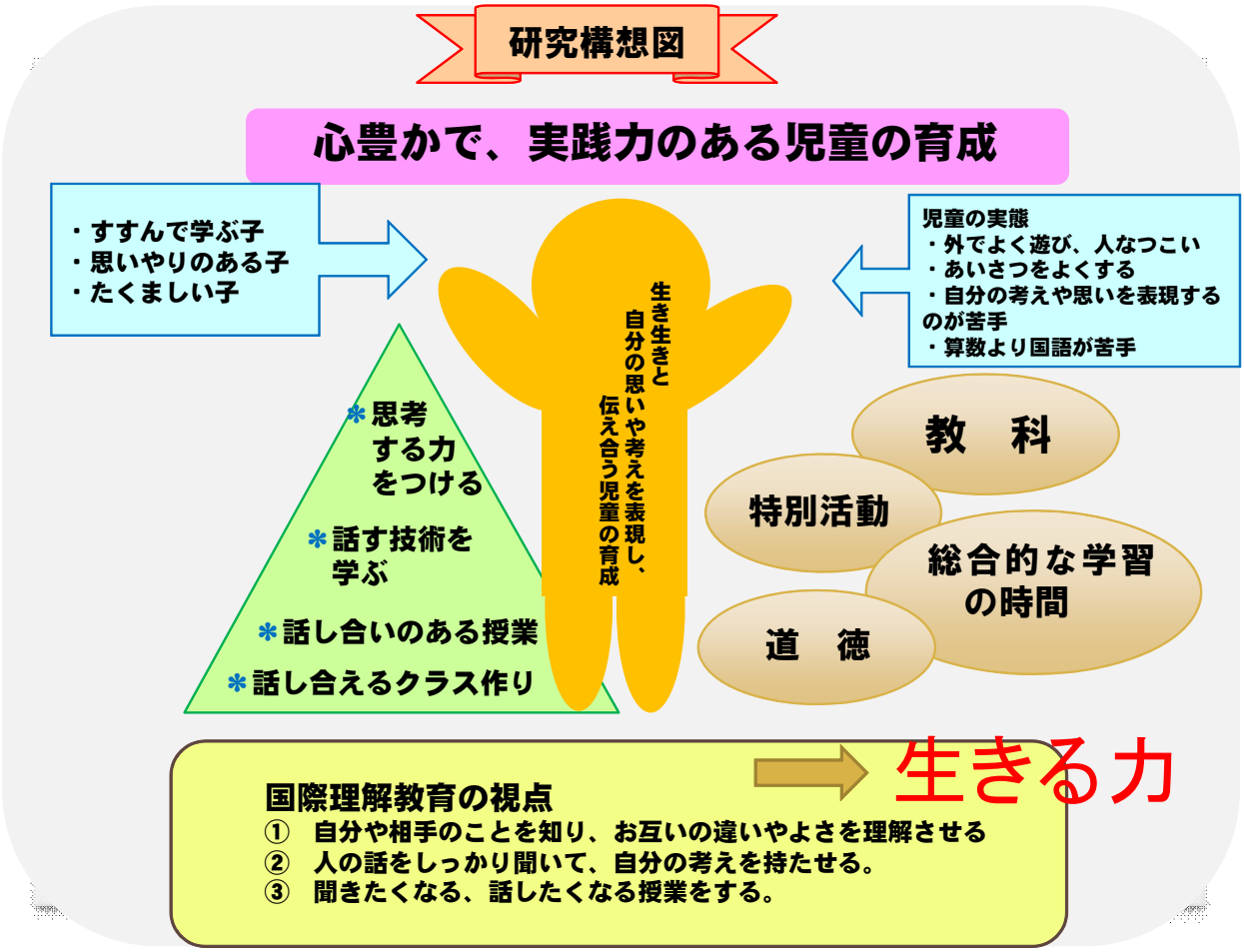
②国際理解教育の視点を生かした授業づくり



4　国際理解教育３つの視点

・自分や相手のよさを知り，お互いの違いやよさを理解させる。
・人の考えをしっかり聞いて，自分の考えをもたせる。
・聞きたくなる，話したくなる授業をする。
（参加型の学習など授業の工夫）

5　研究構想図



6　授業研究

(2)授業研究

①話し合いのある授業をめざして　5年社会

わたしたちの食生活と食料生産「米作りのさかんな地域」

②　話す内容を組み立てて発表する授業　　1年　国語

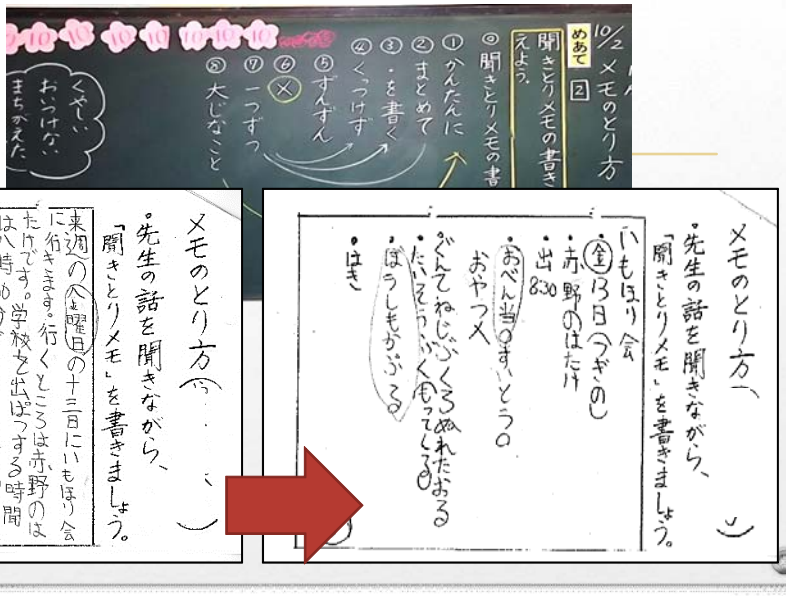
しらせたいことをはなそう「わたしの　たからもの」

③　聞く力をつける授業　　2年　国語

書くこと「メモの取り方」

どんなふうに話せばいいのか
理想の姿を教師がしっかりもち

子ども達に『話す技術』を
教えることが大切



(2)授業研究

⑤　ここまでの成果と課題

教師の意識の変化

- **どの教科でも話し合いのある展開を意識**
- **聞きたくなる話したくなる授業の研究、チャレンジ**
- **話し合いのためのワークシート作りやノートの取り方の工夫**
- **発問、説明、指示、助言を効果的に**
- **国語科の系統的な指導、各学年指導すべきことを整理**
- **発表の工夫、指導の工夫**

(2)授業研究

⑤　ここまでの成果と課題

研究で確認した授業の改善

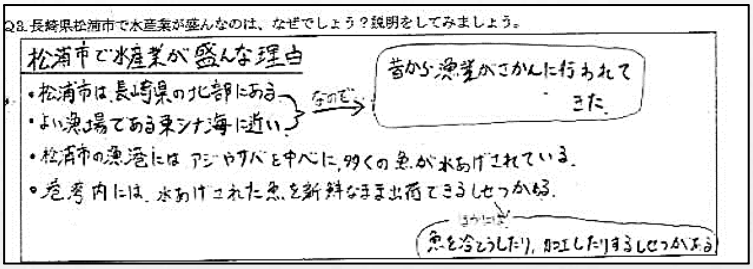
①主語や接続詞を意識して文章で話をさせよう。
②声の大きさや速さだけでなく、効果的に相手に伝える「話す技術」を教えよう。
③ペアやグループ、全体で積極的に話し合いのある授業をしよう。
④単語で答えさせず、根拠を話させ、根拠ある発言をさせよう。
⑤話す前に、自分の思考を深め、話す内容を豊かにする工夫をしよう。
⑥相手が何を言いたいかしっかり聞いて、メモや自分の考えをノートに書かせよう。
⑦児童が到達する理想の姿を描き、それに近づく授業の手立てを考えよう。
⑧児童の心に届いているか、きちんと聞いているか、こだわって授業をしよう。
⑨授業の展開を工夫し、聞きたくなる話したくなるしかけをしよう。
⑩失敗体験もさせながら成功につながる経験をつ ませよ う。

(2)授業研究

⑤　ここまでの成果と課題

教師・児童の変容

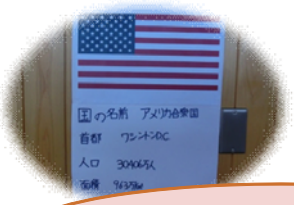
・児童が話し合う授業をするようになった。
・話し合うのに抵抗が少なくなった。



Ⅱ　川東小学校の取組　(3)学校全体で取組む国際理解教育

(1)興味関心を広げ、児童の感性を刺激する。

ア、学校行事で



児童会：川東ワードルフェスタ

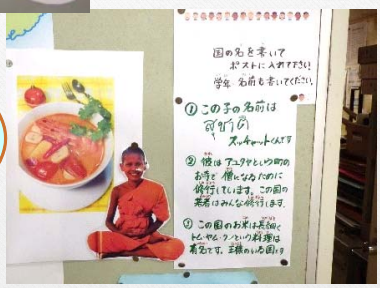
児童朝礼で世界の話

音楽鑑賞会
和太鼓・日本の歌

Ⅱ　川東小学校の取組　(3)学校全体で取組む国際理解教育

(1)興味関心を広げ、児童の感性を刺激する。

イ．全校で



全校
世界一周クイズ

Ⅱ　川東小学校の取組　(3)学校全体で取組む国際理解教育

(1)興味関心を広げ、児童の感性を刺激する。

ウ．日常で

休み時間に

ハロウィン
あいさつ運動

Ⅱ　川東小学校の取組　(3)学校全体で取組む国際理解教育

(1)興味関心を広げ、児童の感性を刺激する。

ウ．授業で　(ゲストティーチャーを招いて

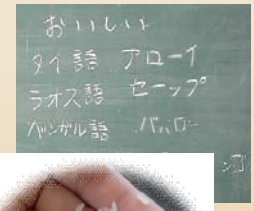
地域の中村氏の
世界旅行体験

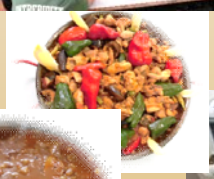
片山氏と
バングラデシュの学生に
よる多文化理解授業

Ⅱ　川東小学校の取組　(3)学校全体で取組む国際理解教育

(1)興味関心を広げ、児童の感性を刺激する。

ウ. 授業で　(ゲストティーチャーを招いて





米を使って
世界の料理を
作ろう

カオパット・クン　パエリア　ゴールドルカリ　カオニャオ

Ⅱ　川東小学校の取組　(3)学校全体で取組む国際理解教育

(1)興味関心を広げ、児童の感性を刺激する。

ウ. 授業で　(ゲストティーチャーを招いて)

A国　B国に
わかれて

文化の違う
他国に
行ってみよう

となりの国は
いったい
どうなってんの？

AMDA社会機構

シュミレーション型学習
『異文化を理解するとは』

Ⅱ　川東小学校の取組　(3)学校全体で取組む国際理解教育

(1)興味関心を広げ、児童の感性を刺激する。

給食『世界の料理を食べよう』

世界の献立

世界の献立紹介掲示・放送・給食便り

4月　日本料理
5月　中国料理
6月　ブラジル料理
7月　スペイン料理
9月　インド料理
10月　ベトナム料理
11月　アメリカ料理
　　タイ料理
12月　フィンランド料理

Ⅱ　川東小学校の取組　(3)学校全体で取組む国際理解教育

(2)　日本の文化に触れ、日本や地域の良さを知る取組

和太鼓　日本の歌にふれる　音楽鑑賞会

茶道で
和敬静寂を学ぶ

Ⅱ　川東小学校の取組　(3)学校全体で取組む国際理解教育

(2) 日本の文化に触れ、日本や地域の良さを知る取組

地域の良さを知り、伝統を守る　　6年古見太鼓

8　落合中学校区５つの取組

Ⅱ　川東小学校の取組　(4)「落合中学校区5つの取組」について

座る姿勢を正す取組

りつよう（立腰）の姿勢

①足のうらを床にピタリ
②おしりをうんと後ろにひく
③腰骨をぐっと前につきだす
④おへその下に力をいれる
⑤かたの力をぬき、あごをひく

いすにもたれない

Ⅱ　川東小学校の取組

（4）「落合中学校区
　　5つの取組」について

家庭学習の習慣化を図る

真庭市立　川東小学校

家庭学習の手引き　３・４年用

１　家庭学習をする時には

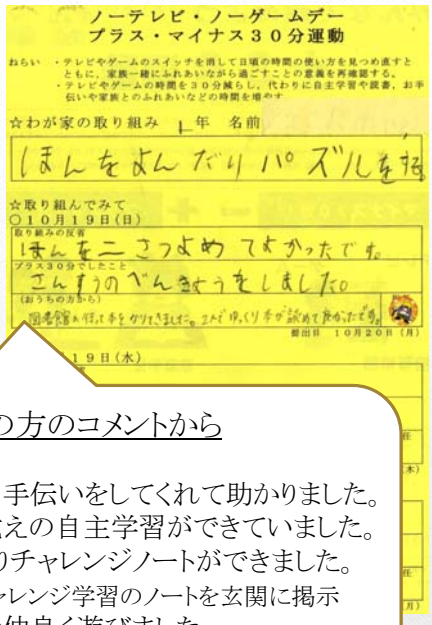
①テレビを消して、決まった場所で、学習しましょう。
②３年生は４０分以上、４年生は５０分以上学習しましょう。
③はじめに、学校の宿題をしましょう。
④時間があまったり、もっとがんばりたいときは、
　「チャレンジメニュー」からえらんでやってみましょう。
⑤学習がおわったら、連絡帳をみて、次の日のじゅんびをしましょう。

２　チャレンジメニュー

- 教科書の文章を、はっきりした声で正しく読めるように音読練習をする。
- ドリルなどを使って漢字に気をつけて、漢字の練習をする。
- 国語の教科書の文章で、心に残ったところや好きなところをノートに書き写す。
- 読書をする。読み終わったら、本の題名、作者、感想を書いておく。
- わからない言葉や知りたい言葉を辞書で調べ、ノートに書き写す。
- ドリルなどを使って計算問題をたくさんとく。
- 算数の教科書の問題をもう一度ノートにする。
- 社会や理科などの学習に関係あることを、本や事典・新聞などで調べてまとめる。
- 次に学習するところを読んだり、調べたりする。
- そのほか、自分で考えた学習をする。

Ⅱ　川東小学校の取組　（4）「落合中学校区5つの取組」について

家庭学習の習慣化を図る



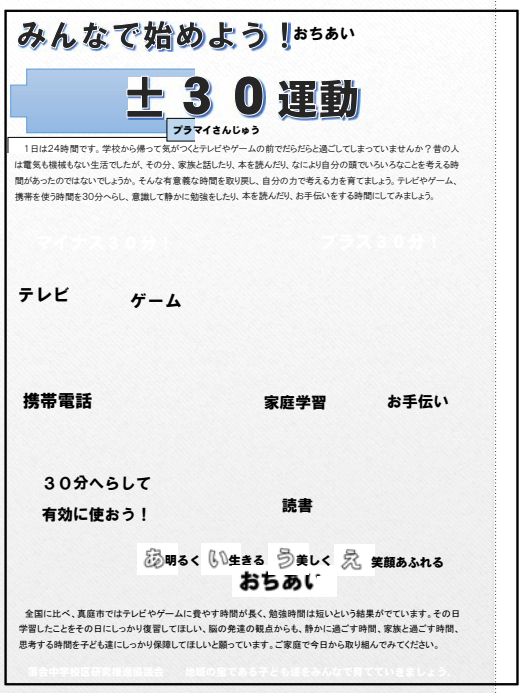
ノーテレビ・ノーゲームデー
プラス・マイナス３０分運動

ねらい　・テレビやゲームのスイッチを消して日頃の時間の使い方を見つめ直すとともに、家族一緒にふれあいながら過ごすことの意義を再確認する。
・テレビやゲームの時間を３０分減らし、代わりに自主学習や読書、お手伝いや家族とのふれあいなどの時間を増やす

☆わが家の取り組み　１年　名前
ほんをよんだりパズルを
☆取り組んでみて
○１０月１９日（日）
取り組みの反省
ほんを二さつよめてよかったです。
プラス３０分でしたこと
さんすうのべんきょうをしました。
（おうちの方から）
１９日（水）

おうちの方のコメントから

・料理の手伝いをしてくれて助かりました。
・県名覚えの自主学習ができていました。
・しっかりチャレンジノートができました。
　→チャレンジ学習のノートを玄関に掲示
・兄弟で仲良く遊びました。



みんなで始めよう！おちあい

±３０運動

プラマイさんじゅう

１日は24時間です。学校から帰って気がつくとテレビやゲームの前でだらだらと過ごしてしまっていませんか？昔の人は電気も機械もない生活でしたが、その分、家族と話したり、本を読んだり、なにより自分の頭でいろいろなことを考える時間があったのではないでしょうか。そんな有意義な時間を取り戻し、自分の力で考える力を育てましょう。テレビやゲーム、携帯を使う時間を30分へらし、意識して静かに勉強をしたり、本を読んだり、お手伝いをする時間にしてみましょう。

マイナス３０分！　　プラス３０分！

テレビ　　ゲーム

携帯電話　　家庭学習　　お手伝い

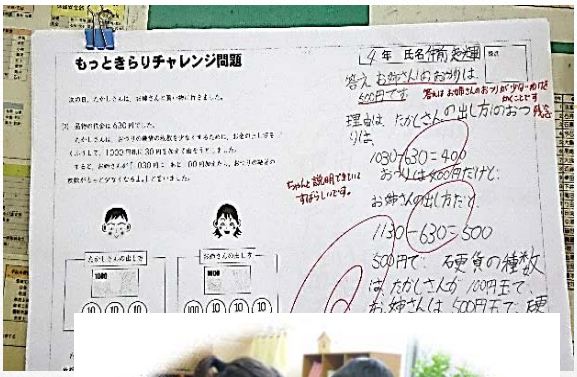
３０分へらして
有効に使おう！　　読書

あ明るく　い生きる　う美しく　え笑顔あふれる
おちあい

全国に比べ、真庭市ではテレビやゲームに費やす時間が長く、勉強時間は短いという結果がでています。その日学習したことをその日にしっかり復習してほしい、脳の発達の観点からも、静かに過ごす時間、家族と過ごす時間、思考する時間を子ども達にしっかり保障してほしいと願っています。ご家庭で今日から取り組んでみてください。

学ぶ楽しみを　全員に

校長先生からの挑戦



最後に

前向きに　明るく　子どもが喜ぶ授業を　わかる授業を
川東小スタッフみんなで力をあわせ
これからも　がんばってまいります。
ご清聴　ありがとうございました。　　川東小学校職員一同

落合中学校区共通５つの取組み

1 【学びの土台づくり】

学習規律の定着を図る

（５つの重点を各校で徹底する。）

① 授業の開始の遵守（チャイム着席）

② 座る姿勢を正すことの遵守

③ 話の聞き方の徹底

④ 返事のしかた

⑤ 発表時の声の大きさと話し方

2

家庭学習の

習慣化を図る

学習時間・内容を各校で検討する。

・各校で「家庭学習のてびき」の活用の仕方について取組む。

3 【授業づくり】 学習過程の定着を図る。

・課題把握 → 課題追求 → 学習のまとめ

・学習過程の中に，自分の考えをまとめる活動や伝え合う活動を取り入れる。

4

【ノーテレビ・ノーゲームデーの取組】

毎月19日に

ノーテレビ・ノーゲームデーを

各校で実施する。

5

【地域への情報発信の取組】

児童・生徒の実態や学校の取組を

家庭と地域に発信し，

家庭や地域の協力を得るようにする

「落合中学校区　±30 運動」の展開

・テレビ、ゲームを　マイナス30分
勉強・お手伝いを　プラス30分

第１分科会　国際理解教育

「世界はひとつ～ちがいを豊かさに～」

山口県防府市立桑山中学校　　田中　紀子

1　国際理解教育の進め方（キーワード）

・小中連携
・キャリア教育
・人権教育

2　いつするか

・教科・道徳・総合的な学習の時間・学活などを組み合わせて実施
（教科は，社会と音楽。道徳は読み物資料。総合的な学習の時間と学活は，留学生との交流会の企画や準備・実施）

3　どのようにするか

・参加型手法（ワークショップ形式）
・フォト（サウンド）ランゲージ
・ロールプレイ，ランキングなど

授業風景（小学校）

4　具体例

①参加型学習（レヌカの学び）

②フォト（サウンド）ランゲージ（どんな音が聞こえるか？）

正かいは　ふくろとびレースでした

③総合的な学習の時間（青年海外協力隊の話）

ＪＩＣＡ出前授業。

ザンビアの現地日本人や中学生とスカイプで交流。

自分のやり方、自分たちの文化を
否定されたらどんな気持ちになるだろう？

日中関係を考える時間として，中国の留学生を招待した。

・ニュースとかで日中関係とか問題でデモとかあったりするけど、みんな悪い人ではないんだなと思いました。やさしい人もいることがわかりました。中国に帰国してもやさしい陳　新さんのままでいてほしいです。

・陳新さんがまた来てくれました。外国の人と会ったり、話を聞けたりする機会はなかなかないので、今日、陳　新さんに聞いたことを忘れずに、中国のことを考えてみようと思います。

パキスタンのマララさんの「ひとりの子ども，ひとりの教師，１冊の本そして１本のペンが世界を変えるのです。教育こそたったひとつの解決策です。何よりもまず，教育を。」という言葉から，学びを作った。

マララさんの生き方から学んだこと

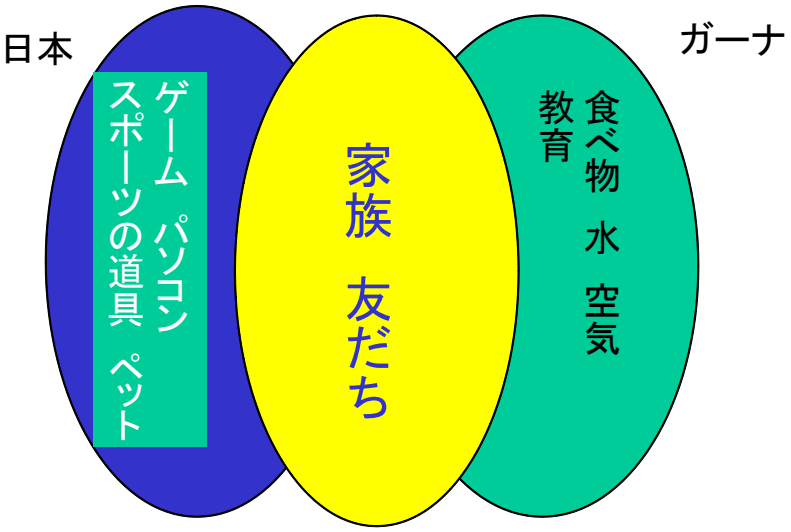
・自分の心で考えた行動をとる。
・マララさんがみんなに平等を与えたいという気持ちを分かることができた。
・正しいことをすると正義につながるという心をもって行動したい。
・なにもしないのではなく、積極的に行動すればよい。
・自分達のクラスは私語が多くて、している人に注意をしようとすると何か文句を言われるのではないかと不安がある。だけどマララさんのように自分の意見を自信を持って言うことが大切だと思った。

世界の国々のいろいろな生活を知ろう！

インドネシアの小学校

オーストラリアの小学校

大切にしているものは？

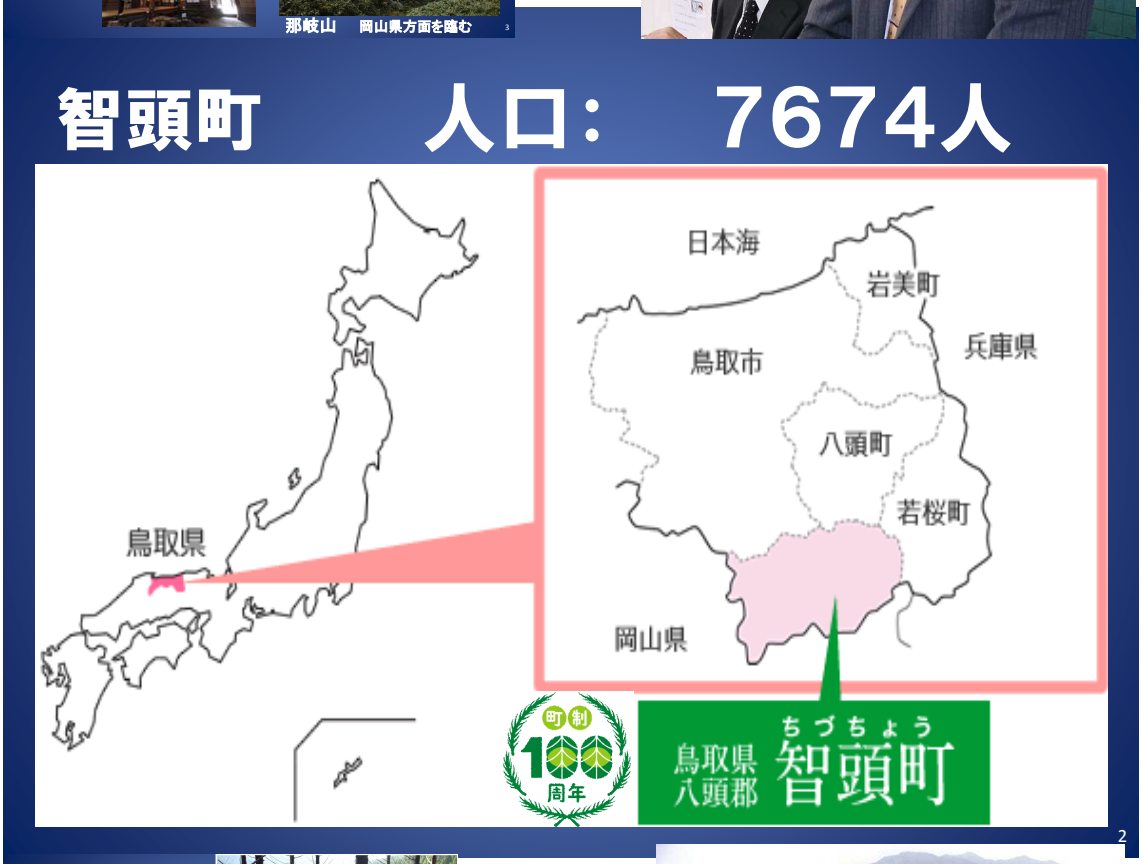

日本
ゲーム　パソコン
スポーツの道具　ペット
家族　友だち
食べ物　水　空気
教育
ガーナ

スマイルは
あげてるのかな？
もらってるのかな？

第１分科会　国際理解教育

「ケニアの孤児院に智頭のお米を贈る活動に参加して」

鳥取県智頭町立智頭小学校　　広富　隆史



智頭小学校　児童数：２８１名

コントリビューションの会

・智頭町百人委員会　教育文化部会所属

・智頭米を活かした国際貢献を目的とする

・米作りを通して、
国際交流・異世代交流を図る

・ケニアへ智頭米を贈り、
国際理解・思いやりを養おうとする

アフリカの田んぼの田植え

参加者募集

コントリビューションの会では今年もみなさんの協力をいただいて、ケニアの孤児院マトマイニに贈るお米を作らせていただきます。
子供たち・留学生・地域の人みんなで楽しく元気にお米作りをして交流を深めていき、そしてそのお米はマトマイニだけでなく災害支援米として役立ていくことも考えています。ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

日　時　平成26年5月31日(土曜日)
9:30 集合(雨天決行)
集合場所　坂原公民館
日　程　9:30 集合
10:00 田植え開始
11:30 もちつき・昼食
13:00 片付け・解散
問い合わせ　米本ゆかり 電話 75－2724
その他　汚れてもいい服装で参加してください
タオル・着替えなどがあるといいと思います
昼食ではもちつきをして交流したいと思います

主催：智頭町百人委員会 コントリビューションの会

アフリカの田んぼ 稲刈りのご案内

コントリビューションの会では、地域の人の協力をいただいて育てたお米をケニアの孤児院に贈っています。
今年も収穫の時期になりました。子供たちと一緒に稲刈り・もちつきをして楽しく交流したいと思います。手伝っていただける方を募集します。よろしくお願いします。

日　時　平成26年9月21日(日曜日)
集合場所　坂原公民館
日　程　9:00 集合
12:00 昼食・交流会
14:00 解散
もちつきしまーす！
その他　昼食、お茶はこちらで準備します
農作業できる格好できてください
(長袖・長ズボン・運動靴または長靴)
軍手と稲刈り用の鎌があったら持ってきてください
問い合わせ　米本　ゆかり(電話75－2724)

主催：智頭町百人委員会コントリビューションの会

学校から配布したお便り

田　植　え

稲　刈　り

田植え・稲刈りの後 交流会

15

14

菊本照子さんとの交流会

16

菊本照子さんとの交流会　感想（4年生）

- マトマイニのみなさんが、智頭の米を食べていることを知って、ぼく達はつながっているんだなあと思いました。ケニアのことをもっと知りたくなりました。
- 私たちは、一日三食食べることや学校に行くことは普通のことなのに、マトマイニの人たちは普通じゃないのだなあと思いました。私は幸せなのだと思いました。ごはんをそまつにしてはいけないんだなあと思いました。勉強も運動もがんばろうと思いました。

17

ケニア大使との交流会

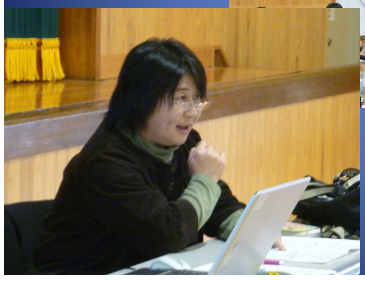
18

ケニア大使との交流会　感想（6年生）

- ケニアの服や楽器は、日本のものと全然違うのだなと思いました。ケニアのナイロビは、今24℃くらいだそうで、涼しくていいなあと思いました。大使さんは智頭の緑がとてもいいと言っておられたのでうれしかったです。智頭の緑を大切にしていきたいです。
- ケニアの人は日本と仲がよくて、その中でも智頭町と仲がよいとおっしゃったのでうれしかったです。ぼくは、これからも米を送るために、米作りに参加していきたいです。

19

米本ゆかりさんとの交流会



20

米本ゆかりさんとの交流会　感想（6年生）

10月23日はアフリカのことについて、話してくださり、ありがとうございました。私は、貧しい国のことについて、あんまり、考えたことがなかったけど、考えるきっかけとなりました。水や電気がない生活は、苦しいなぁと思いました。今まであたりまえだった、家族がいることやごはんがたくさん食べられること、毎日学校に行けることなど、たくさんのことに感謝し家族を大切にしたいなぁと思いました。

米本さんのお話を聞いて、私も、大きくなったら、世界のボランティアに参加して、たくさんの人の役に立ちたいと思いました。

本当にありがとうございました。

先日は米本さん達がしておられる活動について教えてくださり、ありがとうございました。

始めは何をしているか、何を目的として活動しているか全く分からないままでしたがお話を聞いてよく分かりました。そして、話を聞き、米本さんがとてもすばらしいことをしているという事を改めて感じました。

私は特に「自分には関係かないと思ってはいけない」と言われたのが心に残っています。自分に関係ないと思ったらいけないなぁと思いました。そして、私達がいつも、あたり前だと思っていることは、あたり前ではない人だなぁと思います。だから、ふだんから物を大切にしたりしていきたいです。

おいそがしい中、私達にお話をしてくださり本当に、ありがとうございました。

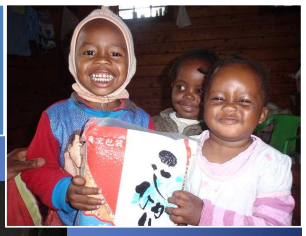
21

学習発表会に向けての取り組み
6年「発見！智頭の宝物」

- 智頭のすばらしい取り組みとして、児童がこの活動について紹介する

22

マトマイニの子どもたちと「チズライス」



23

活動への参加や交流を通して・・・

- 外国への関心深めるきっかけとなっている
- 町の取り組みが、外国の方に役立っていることを実感する機会となっている
- 自分の町に誇りをもつことにつながっている

24

智頭中学校 「町づくりについて考える学習」
― 百人委員会へのプロジェクト提案に向けて ―

中学生ができるまちづくり企画

智頭、生徒が論議

智頭中学校の生徒たちが、智頭町のまちづくりについて考えるワークショップを同校で開いた。地域の特色を生かしながら、町が抱える課題の解決につなげるプロジェクトについて意見を出し合った。総合学習の一環で、2年生55人が参加。同町の百人委員会でのプロジェクト提案に向けた一歩目の活動として行われた。

ワークショップでは、町の職員も参加して5つのグループでおのおのが考えてきたまちづくりのプランを発表。グループ内で話し合い、地域の資源や特色と組み合わせながら、中学生でも実現可能な企画を考えた。

生徒たちは、森林セラピーをしながら地域で山菜を収穫する探検プランや、イスやネコと一緒にカフェを楽しむといったアイデアを各班でまとめていた。赤堀仁美さん(13)は「大人から子ども、まで誰でも楽しめる行事やイベントを考えていきたい」と話していた。(長谷芳博)

日本海新聞　H26. 10. 15

中学校や将来に発展していくことを期待

25

第１分科会　国際理解教育協議

田中先生

小学校では，アフリカに派遣されていた頃の「遊び」の音声のみ聞かせて考えさせる取り組みを行った。また，中学校では，「レヌカの学び」などの参加型学習を行った。総合的な学習の時間では，ザンビアの現地日本人や中学生と，スカイプで交流する取り組みを行った。活動は，一過性になりがちだが，国際理解からキャリア教育につながるように仕組んだ。国同士では，問題もあるが，人間レベルでの付き合いをして欲しいと願っている。ノーベル賞を最年少で受賞したパキスタンのマララさんを取り上げて考えた。大切にしているものを日本で聞くと，「ゲーム」「パソコン」「スポーツの道具」「ペット」。でも，ガーナで聞くと，「食べ物」「空気」「教育」「水」そして共通する物は，「家族」「友達」だった。

質問　国際理解を広めていく方法は。

答え　少しずつ話題を出しながら，他教科や学年で協力して取り組んでいくと浸透しやすい。

質問　人権問題について，中国の方との交流で，生徒や保護者の意識の変容があったか。

答え　当初は，教員からも不安の声が上がった。しかし，交流していく内に触れ合って良かったと子ども達から声が聞かれるようになった。ゲストティーチャーとの打ち合わせを綿密に行い，交流の趣旨や目的をはっきりさせて行うようにした。

広富先生

マニラ日本人学校での勤務を経験した。学校をあげての稲刈りには，留学生が参加して共同で実施した。ゲストティーチャーには，日頃から食べ物があることに感謝して欲しいと話があった。自治体での取り組みを通して，子ども達に，このプロジェクトの素晴らしさを実感させた。

全体協議

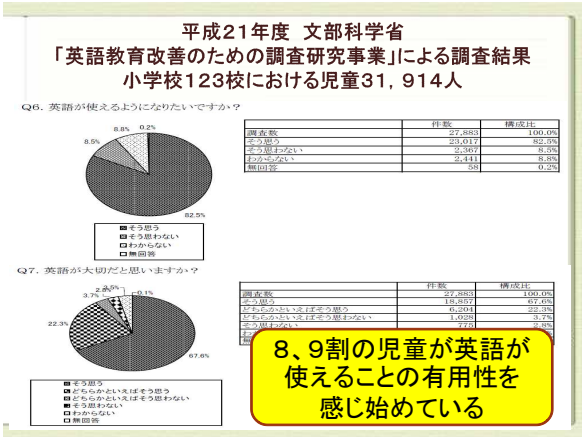
・知ることで，その国についての興味・関心がもてた。
・子ども達の受け入れる引き出しが増え，他者理解が深まった。
・派遣された国の間違ったイメージを変えていくために，担当のクラスだけではなく，他校へ出前授業に行くなど，少しずつ広げていっている。
・アフリカについて紹介すると，まず「かわいそう」という感想をもつ。そうではなくて，そういう子ども達と手を取り合って，また自分達には何ができるだろうかという意識をもつことが大切である。

分科会　外国語活動

広島県大竹市大竹小学校　太田　壮治

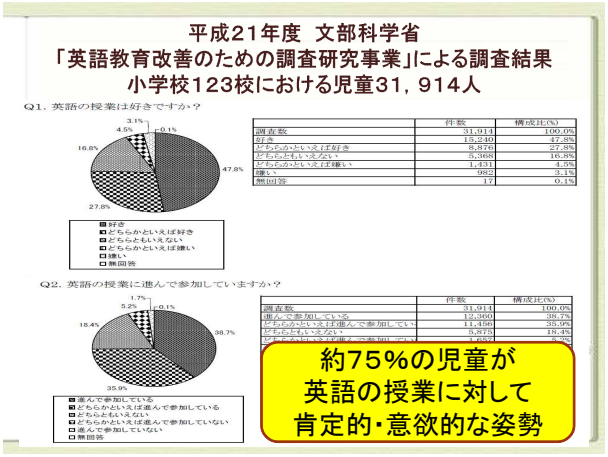
夢でつながる外国語活動
～コミュニケーション能力の素地を養うために～

小学校学習指導要領の外国語活動編で定められている目標は，
①外国語を通じて
②言語や文化について体験的に理解を深め
③積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り
④外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら
⑤コミュニケーション能力の素地を養う
となっている。その中でも中学校や高校の目標と比較した際に注目すべき点の一つが，高校は能力，中学校はコミュニケーション能力の基礎，小学校は「コミュニケーション能力の素地」を養おうという点だと思う。そもそもコミュニケーション能力の素地とは何かだが，英語ノートやハイフレンズの作成にも携わっている文部科学省の教科調査官の直山木綿子先生はこのように話している。
「まず①に気づき，②を感じながら，積極的に人と言葉でコミュニケーションを図ろうとする態度や力を身に付けさせようということである。」
そう考えた時，小学校の外国語活動では発音練習でその表現を覚えることだけに力を入れるのではなく，４５分の授業の中に，学習した表現を使って友達と関わる時間をどこでどれだけ取り込めるかを常に意識して授業をつくることが大切だと考える。



では，このような力の養成を求める外国語活動に対して，児童自身がどのようにとらえているのかも考えてみたい。このデータは，平成２１年度文部科学省の調査によるものである。まず，「英語が使えるようになりたいですか。」という質問に対して，「そう思う」という肯定的に答えた児童が約８３％，「英語は大切だと思いますか」という質問に対して「そう思う，どちからと言えばそう思う」という肯定的に答えた児童を合わせると約９０％となっている。このことから，８，９割の児童が，英語が使えることの有用性を感じ始めているのではないかと考えられる。それは，児童の生活にも英語に触れる機会が多くなってきていることが理由の一つと考えられる。たとえば，将来スポーツ選手になりたいというあこがれを抱く児童も，海外で活躍するスポーツ選手が英語でインタビューの受け答えをする場面をテレビで見て，あこがれやかっこよさを感じることはあると思う。また，児童が好きなゲームにも，ストーリー展開や技名の中で英語の表現が出てくることが多い。さらに，好きな音楽のア

ーティストがかっこよく，あるいはかわいく英語で歌う姿をテレビやインターネットで見る機会が，「英語ってしゃべれたら何かかっこいいじゃん，」とか「英語の意味がわかればもっと楽しめそう」という学びたくなるような刺激を与えているのではないかと考える。つまり英語を学ぶことは，将来の可能性を広げてくれたり，楽しいことをさらに増長してくれるような魅力的な性質をもった学習ではないだろうか。



だからこそ，この資料を見てもらうと分かるように，「英語の授業が好きですか？」という質問や，「英語の授業に進んで参加していますか」という質問に対して，約７５％の児童が英語の授業に対して肯定的・意欲的な姿勢を示している。

ただ，「英語の授業で楽しいと思うことはなにか」という質問に対し，約９４％の児童が「英語を使ったゲーム」と答えている。鉛筆を持たなくていいし，早く書けとも言われないし，字をていねいにとも言われない，他教科と比べて楽な気持ちで楽しみながら学習する時間は，児童にとってやはり好ましいものなのだと思う。一方で，「英語で友達と会話をすること」が楽しいと感じている児童も約７２％いる。このことから，基本的には友だちと関わりがらゲームを楽しんでいる実態が全国的には見られる。

では，私のクラスの実態はどうかアンケートをとってみたところ，「友達と外国語を使ってゲームをしたり会話のやりとりをしたりすることが楽しい」が９割，「チャンツや発音練習の時には，ＡＬＴの口の動きや，英語独特の言い方」に気を付けて聞いたり話したりしようとしている」が８割と答えており，やはり外国語活動に対する関心・意欲は高いと感じる。

ただ，英語のゲームを使って友達と会話をすることが楽しいと答えたその「友達」が私には問題と感じた。アンケートの結果は，「友達と外国語を使ってゲームをしたり会話のやりとりをしたりする際，関わる友達がいつも同じである」と答えた児童が７割だった。また記述回答欄には，「ＡＬＴの発音をまねしたいけれど難しい」「自分の表現が正しく伝わっているのか分からない」ということも書かれていた。このことから，関わる友達が固定化されているために，学級内の交流が深まっていないのではないか。これは，社会に出て言葉で豊かな人間関係をつくっていくという，本当の意味での「コミュニケーション能力の素地」にはつながらないのではないかと考えた。では，簡単にいろいろな友だちと関わりなさいという指示だけしても自信がもてない表現方法では，普段関わりの少ない友だちと関わることはさらに億劫になるのではないか。

こういった課題もふまえ，去年の合同研究授業では，６年生の外国語活動で「Good luck!みんなの“夢”に応援メッセージを送ろう」とい

う単元の研究授業を行った。どんな職業に就きたいか積極的に尋ねたり，自分の夢を伝えたりする表現に慣れ親しみながら友達と交流することを通して，コミュニケーションを図ることの楽しさや大切さを知る。また，将来の夢を交流するために，今までの学校や家庭，社会生活を通して深まってきた自己理解や広がってきた視野を生かした活動を行い，自分の将来像を見つめ直す。そして，「夢宣言」をする際には，友達の「夢宣言」を応援する表現を使って応答することで，必然的な双方向のコミュニケーション活動に取組み，多くの友達と関わりながら人間関係力を高めるというねらいである。単元名に「Good luck!」とつけたのも，一方通行で夢宣言というスピーチをしても，コミュニケーションとは言い難いと考えたので，少ない語彙だが，「You can do it」「Good luck」「Nice dream」など応援する表現も授業の中で練習した。

展開は次の通りである。まず１時間目は，様々な職業の英語での言い方を知るということで，ゲームを通して「teacher」「doctor」「artist」といったような表現を練習した。次に，２時間目は「世界には，自分たちと同じように将来に夢を描いている子どもたちがいることを知るとともに，どのような職業に就きたいか尋ねたり，答えたりする言い方を知る。」ということで，チャンツなども使って「What do you want be?」「I want be a ～」といったような表現を練習した。そして３時間目は「自分の夢に関係のあることから，好きなことや得意なことを考えて「Dream card」に表し，相手に伝わりやすい言い方や応援の表現を確認したりしながら慣れ親しむ活動に取り組み，４時間目の「将来の夢を発表する夢宣言を行い，応援メッセージで交流する。」を公開授業で実践した。

それでは先ほど出てきた「Dream card」の説明をすると，まずこのような形のカードに，自分の将来の夢と，それに関係のある好きなことや得意なことを考えてその絵を描いたりはったりする。これが実際に子どもが作った「Dream card」である。

まず表紙に「～s dream」と書く。一つ開くと，この児童は美術館の絵を張っている。夢宣言のセリフは，「I like」にした。ここでポイントになるのが，「I like」といったような既習の表現だと思う。あえて好きなこと，得意なことに関する絵を張るように指導したのは，この表現に慣れ親しませるためだった。また一つ開くと，このような絵を貼り付け，「I can」というセリフを考えた。この「I can」という表現も既習の表現である。

また一つ開くと，このような絵を貼り付けた。でもこの児童は工作が好きだということを表現したかったのだが，工作という表現が分からなかった。その他の児童も同じで，英語で表したいけど何て言えばいいのか分から

ないということがたくさんあった。でもそれを見越して，「How do you say ～?」という表現も事前に練習させた。そして，担任やＡＬＴに聞いて解決するよう仕組んでいった。

そして最後に開くと，自分の将来の夢を表す絵が貼り付けられており，「I want to be a～」というセリフを言う流れになっている。

夢宣言といっても，いきなり大勢の前に立っていうだけでは交流になりにくいので，このようにじゃんけんをして勝った方から「What do you want to be?」と尋ね，尋ねられた方はクイズ形式で先ほどのセリフを言いながら一枚ずつめくっていく。そして，一人が伝え終わったあとには必ず応援のメッセージを伝えることと，相手のカードにサインをするようにした。こうすることで，視覚的に自分がどれだけの友だちと関われたのかが見て分かると同時に，後で回収して評価の材料にすることもできた。また，サインの数を数えさせて一番多くの友達と関われた子や，私が見て普段の仲良し友達だけでなく，また男女関係なく関われていた子，さらに相手の目を見て笑顔でやりとりができていた子などをピックアップして表彰するようにした。また，数名の児童には立候補でクラス全員に向けての夢宣言をさせ，クラスみんなから応援のメッセージをもらえるような場も設定した。

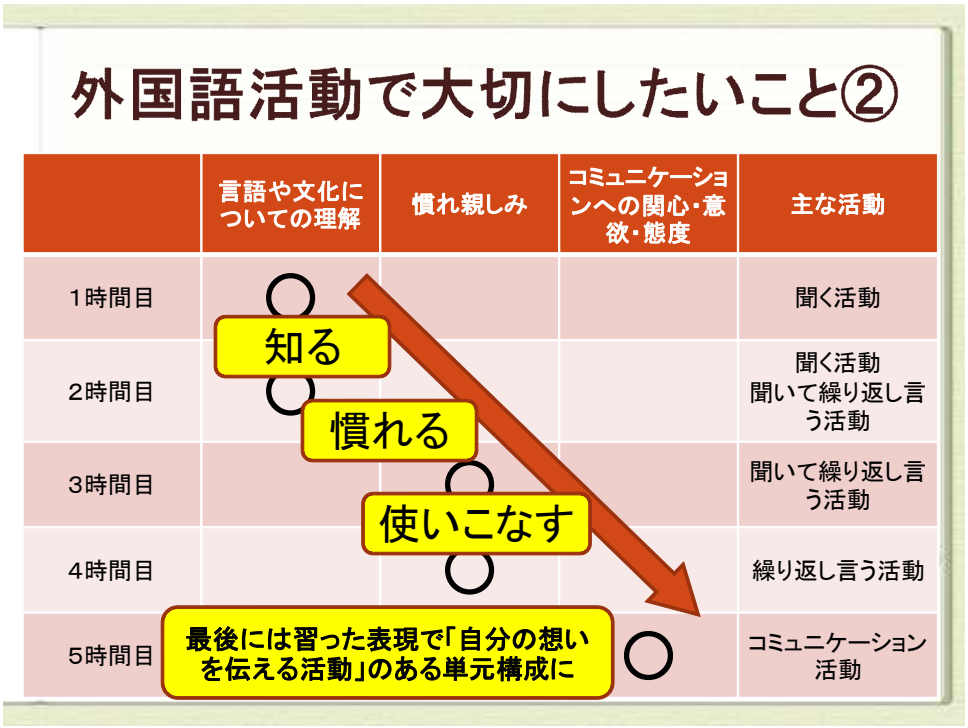
このような実践から得られた成果と課題は次の通りである。１つ目は，「夢宣言」をする際には，友達の「夢宣言」を応援する表現を使って応答する練習をしたことで，必然的に双方向のやりとりが生まれ，外国語活動を通して学級内の多くの友達と「伝わった・つながった」という経験を積ませることができたということ。２つ目は，総合的な学習の時間でまとめた自分の将来像を参考にして「Dream card」を作る過程により，今後の自分の行き方を見つめ直すことができたということ。３つ目は，一般的な「コミュニケーション」という言葉のイメージほど会話が続くわけではないが，今回の活動のように短い英語表現だからこそ，普段関わりの少ない友達ともつながるきっかけがもてたことが，外国語活動の魅力の１つであるように感じられたということだ。一方課題は，使える外国語の語彙が限られているため，自分の好きなものや将来の夢を英語で何と言えばいいのかＡＬＴに確認することに手間取ったり，「Dream card」に表すイラストの作成に時間がかかったりしたいう点だった。そこで，手書きは難しいと判断して，wordのクリップアートを使用して作っていった。

最後に，この実践もふまえて，今後私自身外国語活動で大切にしていきたいことをまとめてみた。

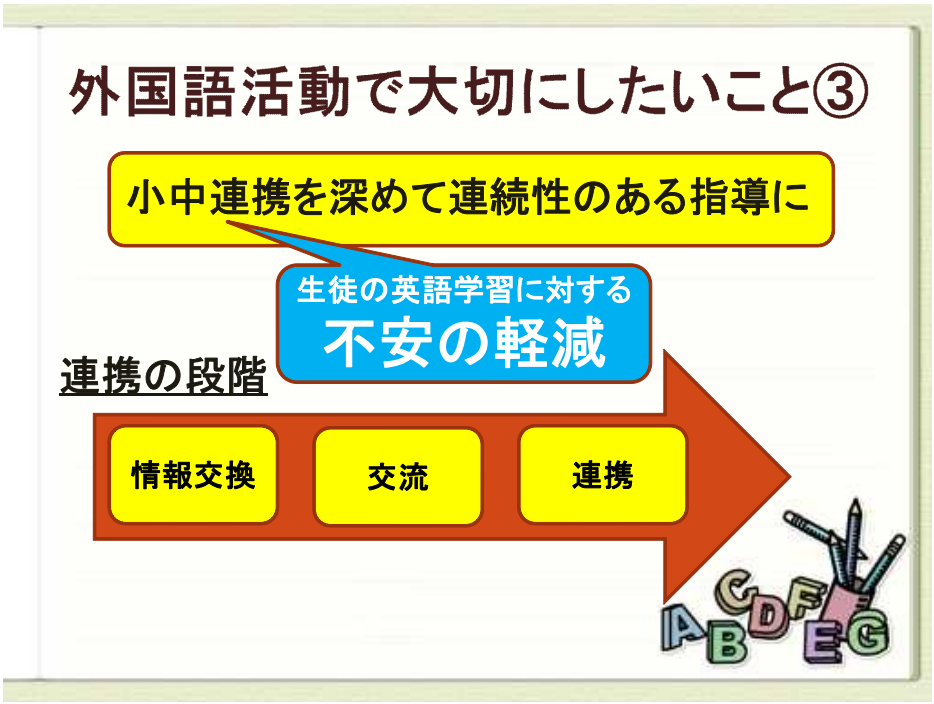
①めあてとふり返りを意識すること。この時間で学ぶことは何かを，教師も児童も分かっていること。そのために，ふり返りカードを作成し，本時で気付いたことは何かを

記録する。

②



③



小学校児童と中学校教諭および生徒
小学校教諭と中学校教諭および生徒
例・小学校６年生で使った教材や作品を，中学校において導入などで使う。小学校で学習した表現と，文法や書き方がつながる。
・中学校の教科書に出てくる夢の紹介や中学生が書いた作品の紹介をする。

分科会　外国語活動

岡山市立石井小学校　吉平　万里子

グローバル社会に生きる石井型英語教育

1　英語教育の内容

①外国語活動

②イングリッシュタイム（火～金の朝の１０分間）

③教科イマージョン（１～４年生の図工で）

④ Happy Break Time（１～２年生隔週水曜日の昼休み）

⑤ Morning Broadcast（火～金の朝の５分間）

外国人留学生を招いての国際交流会（全校）

2　外国人との交流活動

①留学生を招いての交流会

②岡山市友好都市サンノゼの子ども達と手紙で交流（４～６年生）

③ハワイの小学校との交流（３～４年生）

④修学旅行で外国人にインタビュー（６年生）

⑤ＥＳＤ世界会議でのインタビュー（６年生）

⑥「国際人になろう」（５年生）

ハワイの小学校との交流（3・4年）

3　英語に浸る環境づくり

①教室や校舎内外の英語表示

②クラスルームイングリッシュ

③英語放送

・朝の生放送番組

・英語自動生活放送

・発音体操ビデオ放送

④異文化理解

⑤休み時間の有効活用

⑥学校行事の有効活用

・運動会

・学習発表会

⑦保護者・地域との連携

・イマージョンサポーター

・地域や校外の行事への参加

協議

質問　外国語活動の授業スタイルは？
回答　担任が主になり，ＡＬＴは発音を指導する。

質問　ＡＬＴとの打ち合わせは？
回答　曜日と時刻をあらかじめ決めている。

質問　スキルアップは？
回答　校内研修で，教員のスキルアップを行っている。

質問　外国人留学生の交流の窓口は？
回答　岡山大学に相談して，継続的な関係を作っている。

質問　文通相手の窓口は？
回答　岡山市が友好都市から仲介をした。

質問　外国人とのインタビューで大切にしていることは？
回答　うなずきやリアクションをすること。

質問　イマージョン教育の長短は？
回答　外国の人と話せるようになることが長所だが，日本も大切にしていくことを忘れないようにしないといけない。

質問　ＡＬＴの国籍について，保護者から苦情があることはないか？
回答　イギリスやアメリカなら良いが，フィリピンやオーストラリアは発音が駄目と言うような保護者もいたが，英語は世界の共通語としてのツールであり，コミュニケーションができるようになることが大切だと説明している。

＊ご静聴ありがとうございました＊

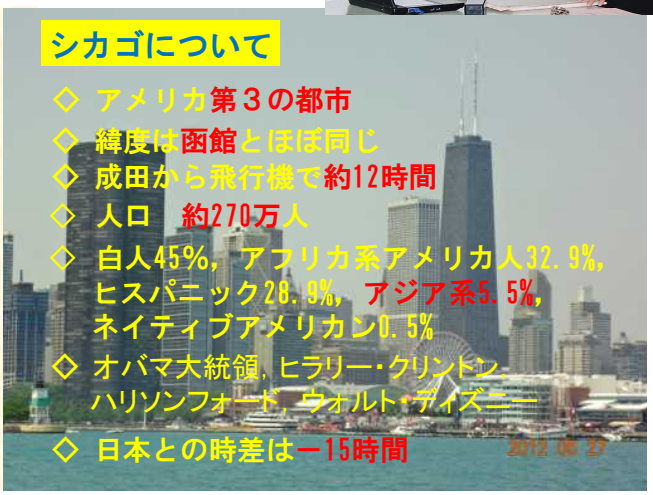
第8回全国海外子女教育・国際理解教育研究中国ブロック大会（岡山大会）
第22回岡山県国際理解教育研究大会（美作大会）

国際化の次代を担う子どもたちの育成を目指して

～シカゴ補習授業校での取組～

島根県松江市立美保関中学校
小　澤　正　則

1　シカゴについて



2　シカゴ補習授業校

3　学校教育目標

学校教育目標

- **全学年で日本の教科書での学習をすすめ，日本語能力を身に付け，その目標を達成する。**
- **豊かな心情を育成し，たくましく生きる力を身に付ける。**
- **日本文化に親しみ理解を深めながら国際人としての資質を育てる。**

4　教育課程

教育課程

1　幼稚部・小学部・中学部

幼　稚部	健康，人間関係，環境，言葉，表現の各領域にわたり終日保育			計６時間
小　学　部 １年～５年	国　語　４ （内１図書）	算　数　２	学級活動（　８時間/年間） 学校行事（１２時間/年間）	計６時間 ４０分
小　学　部 ６年	国　語　３	算　数　２	社　会（３０時間/年間） 学級活動（　８時間/年間） 学校行事（１２時間/年間）	計６時間 ４０分
中　学　部 １年～３年	国　語　３ いっぱいⅠ，Ⅱ	数　学　２ いっぱいⅠ，Ⅱ	社　会（３０時間/年間） 学級活動（　８時間/年間） 学校行事（１２時間/年間）	計６時間 ４０分

2　高等部（教科選択制）　学級活動８時間　（一単位時間を８０分とする。）

1年	2年	3年
数学Ⅰ（基礎・発展）２	現代文（基礎・発展）　２	
国語総合（基礎・発展）２	数学Ⅱ・数学Ⅲ　２	
エッセイ　２	小論文（基礎・発展）　２	

5　１日の流れ

1日の流れ（日課表）

幼　稚　部		小学・中学・高等部	
職員朝礼	８：３０～　８：４５		
朝の会	９：００～　９：４５	学級での指導	９：００～　９：１５
活動①	９：４５～１０：３０	第１校時	９：１５～　９：５５
活動②	１０：３０～１１：００	第２校時	１０：００～１０：４０
活動③	１１：００～１２：００	第３校時	１０：５０～１１：３０
		第４校時	１１：３５～１２：１５
昼休み	１２：００～１２：４５	昼　　食	１２：１５～１３：００
活動④	１２：４５～１４：００	第５校時	１３：０５～１３：４５
帰りの会	１４：００～１４：３５	第６校時	１３：５０～１４：３０
		学級での指導	１４：３０～１４：４５
バス出発	１５：００		

6　年間授業数（平成２５年度）

第１学期　４月　６日　～　７月１３日　授業日数１５日
第２学期　８月１７日　～１２月１４日　授業日数１７日
第３学期　１月　４日　～　３月　８日　授業日数１０日　年間４２日

7　在籍数

幼稚部　　３クラス　５７名
小学部　１年生４クラス　７６名
　　２年生４クラス　７３名
　　３年生４クラス　６９名
　　４年生３クラス　５５名
　　５年生３クラス　６４名
　　６年生３クラス　４８名
中学部　１年生２クラス　３７名
　　２年生２クラス　４０名
　　３年生２クラス　２５名
高等部　各学年１クラス　３８名

合計　５８２名

8　教職員数

文部科学省派遣教員　２名
現地採用教員　３８名
事務職員　６名
カストディアン　３名

9　登下校

スクールバス１７台
地域住民への配慮から，全員スクールバスを原則として利用している。

10　年間行事

４月　始業式，入学式，ＰＴＡ総会
５月　学級写真，授業参観・懇談会
６月　避難訓練，英検
７月　幼稚部七夕会，終業式
８月　始業式，読書感想文コンクール
９月　運動会，校内作文コンクール
10月　授業参観・個人面談，英検，幼稚部音楽発表会
11月　オープンハウス，避難訓練，漢検，幼稚部お店屋さん
　　高等部カリキュラム説明会
12月　幼稚部お楽しみ会，中学部タレントショー
１月　始業式，餅つき会，コース説明会，入園入学説明会
２月　文集発行，高等部進学説明会，漢検
３月　卒業式，修了式

入園・入学式

七夕会，もちつき会などの日本的な行事

参観授業（５月・１０月）

運動会

11　作文指導

平成２３年度２学期より国語力を高める全校的な取り組みとして，幼稚部から高校３年生まで一貫した作文指導を開始している。単元配列表や評価基準を作成した。その結果，各種コンクールなどで入賞者が増えるなど，少しずつ指導の成果が出て来ている。

作文一貫指導

学年	平成２３年度(２学期～)	平成２４年度	平成２５年度
幼	絵日記	絵日記	いろはかるた
小１	絵日記（③ます目なし）	①～③絵日記（毎週） （段落分け，初めの一マス空け，結びの工夫）	絵日記（毎週），②後半からテーマを与える。 ③作文集大成
小２	絵日記（絵のスペースを小さく）	①～③絵日記（隔週），三段落構成，「いつ」「どこで」，「だれ」を意識，接続語，学期が進むにつれ書く枚数を増やす。	絵日記
小３	１文日記（１日1文×6日） ②作文（２００字） ③作文（４００字）	①短文日記（200字） ②短作文日記（ます目なし） ③課題作文 句読点のマス目の中の位置を図示，「作文の書き方」配付	短作文（２００字）
小４	①作文（レターサイズの用紙半分） ②感想文	作文指導の時間を週１時間 作文用紙の使い方（最初の三行）の指導，構成	①　　1時間の作文指導 ②　　感想文
小５	交換日記 テーマに沿った作文（ノート） 読コと海コへの全員参加	①②一言日記（帰りの会で５分） ③課題作文（宿題） 読コと海コに全員参加	交換日記（帰りの会） 一言日記 海コへの参加
小６	教科担任によって違う。 教科書の単元 ４行作文・起承転結	①４行作文　②１００文字作文 海コに全員参加，新出の語彙を使った短文作り 理由を表す文，言い回し・修飾語・文末の指導	4行作文（帰りの会）
中１	教科担任によって違う。 教科書の単元重視	２００字作文，運動会作文 「国語のワーク」の活用 四行作文	夏休み200字作文 ミニ作文
中２	教科担任によって違う。 教科書の単元重視	①②藤原式２００字意見文 ③教科書の単元（下書き，推敲，清書） 定期テストの評価規準を設定	藤原式２００字意見文 海コへの全員参加 定期テストの評価継続
中３	教科担任によって違う。 教科書の単元重視	①②藤原式２００字意見文 ③教科書の単元（下書き，推敲，清書） 定期テストの評価規準を設定	藤原式２００字意見文，時事問題に関する作文，海コへの全員参加 定期テストの評価継続
高１	作文（最低１枚） 各種コンクールへの参加	作文，意見文　作文三段落構成の徹底、 国語総合で創作文・pre小論文挑戦・校長賞教頭賞	作文，各種コンクールへの参加
高２・３	小論文（2枚）天声人語の視写 各種コンクールへの参加	課題文の要旨，課題文を意見と事実に判別練習 小論文（大学入試の過去問題，新聞の活用） 序論・本論・結論	小論文（時事問題重視） 各種コンクールへの参加

使える英語教材①

Tumble Book Library

（http://asp.tumblebooks.com/library/asp/home_tumblebooks.asp）

レベル分けされたたくさんの本が紹介してあり，子どもたちは自分の興味やレベルに合わせて読むことができる。書籍のように読み進めることもできるが，読み聞かせの機能がついているので，ネイティブスピーカーの発音を聞きながら物語を楽しむこともできる。

Raz-Kids（http://www.learninga-z.com/index.html）

たくさんの書籍がA(aa)からZまで27のレベルに分類されており，読み聞かせの機能の他，自分で録音し，後でそれを聞いて確認することができる。さらに，物語の内容についての設問が設けられているので，自分の理解度をその場ですぐに確認することもできるようになっている。また，個人はもちろん，クラス単位で申し込むことも可能で，教師や保護者は子どもたちの学習の進度等をいつでも確認することができる。

Reading A-Z（http://www.learninga-z.com/index.html）

Raz-Kidsと同じサイト内にあり，同様にA(aa)からZまで27のレベルに分類された書籍から選ぶことができる。検索機能がついていて関係の書籍を簡単に探せたり，書籍をプリントアウトして配付することもできるので，これを授業や家庭学習に活用している学校もある。

使える英語教材②

Easy English News

アメリカへの移民や訪問者で英語を学習しようとする人のために毎月1回発刊されている新聞である。話題となっているニュースはもちろん，ハロウィンやクリスマスなど昔からの慣習についての説明が写真やイラスト付きでとてもわかりやすい英語で書かれており，日本の中学3年生くらいの英語力のレベルであれば十分に読むことができる。日本からの定期購読も可能で，1部5ドルとなっているが，まとめて購読すると少し割安になり1部2～3ドル程度で購読できる。

News for You（http://newsforyouonline.com/index.asp）

比較的簡単な英語で書かれたニュース等を読むことができる。ネイティブの発音で読み上げてくれたり，一文ずつ区切って聞き返すこともできる。また，少し難しい単語や熟語には注訳がつけられているなど，理解しやすいように工夫されている。教師が登録することで，生徒は共通のパスワードを使ってすべての記事を読むことができる点は便利である。

We read（http://www.weread.org/）

子ども向けの本が多数あり，自分のレベルに合わせて読むことができるので，子どもたちの家庭学習として活用できる。もちろん子どもたちの実態にあわせて授業で取り扱うことで，楽しく英語を学ばせることができる。

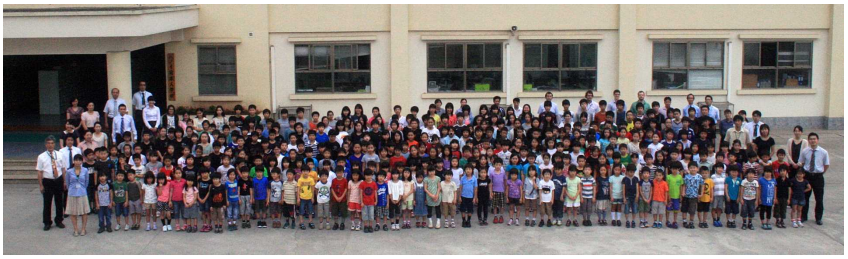
東日本大震災復興支援活動　物品製作・販売

東日本大震災復興支援活動　募金活動

総額$10,612.09

The Japanese School of Hanoi

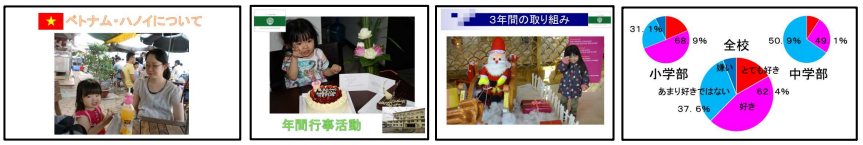
派遣先：ハノイ日本人学校
期間：平成22年度～24年度（3年間）



国際感覚豊かな児童・生徒の育成

～ベトナム・ハノイでの3年間で見たもの～

総社市立総社小学校　教諭　小野　剛一



1　ベトナム社会主義共和国

人口　８８００万人（世界１３位）

首都　ハノイ

気候　北部は温帯で四季があるが冬は短い。
南部はサバナ気候で年中暑い。

民族　５４の民族。
北部は，勤勉でまじめ。
南部は，陽気でおおらか。

宗教　８割が仏教

衣服　アオザイ

食　米が主食で箸を使う。

農業　米，コーヒー（世界第２位）

日本　日本とのつながりは，優秀な労働力と低賃金により，企業の製造拠点となっている。ホンダ・トヨタ・ミツビシ・キャノン・パナソニックなどの工場がある。

ベトナム社会主義共和国

首都：ハノイ
人口：約8800万人（世界13位、2011年現在）

歴史

1847～1945年
フランス植民地支配時代

1962～1975年
南北分断時代
↓
ベトナム戦争

1976年
ベトナム民主共和国
↓
ベトナム社会主義共和国へ

1986年
ドイモイ（刷新）政策を開始
↓
社会主義型市場経済を目指す

2　ハノイ日本人学校

①日本と異なる点

・現地校との交流会を年間２回行い，互いの文化を紹介して理解・交流を深めている。

・ベトナム語の授業
・漢字検定
・数学検定
・英語検定

③校内研究

研究主題「国際感覚豊かな児童・生徒の育成」

～体験活動・言語活動を生かした本校独自の教育活動を通して～

めざす児童・生徒像

自国の文化や伝統を理解し尊重でき，他国の文化や伝統を理解し尊重でき，お互いの良さを認め合い，自分の考えを伝え合う能力や態度を身につけ，自分のおかれている環境や生活において，自分のこととしてとらえ，すすんで学び，行動できる子ども。

現地を題材にした教材

例）体育「表現:ハノイランドへレッツゴー！」

社会「はたらく人とわたしたちのくらし」

道徳「家族愛」

社会「世界から見た日本とベトナムの人口」

算数「小数のわり算を考えよう」

理科「天気と気温」

生活「むかしからのあそびをしてみよう」

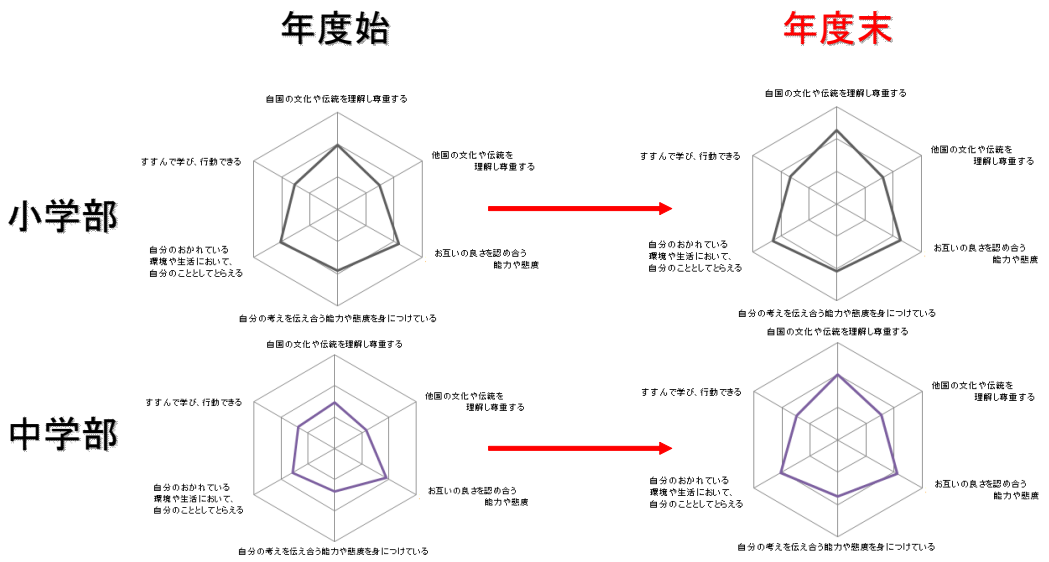
国語「漢語・和語・外来語」

国語「かんじのはなし」

音楽「日本の音楽に親しもう」

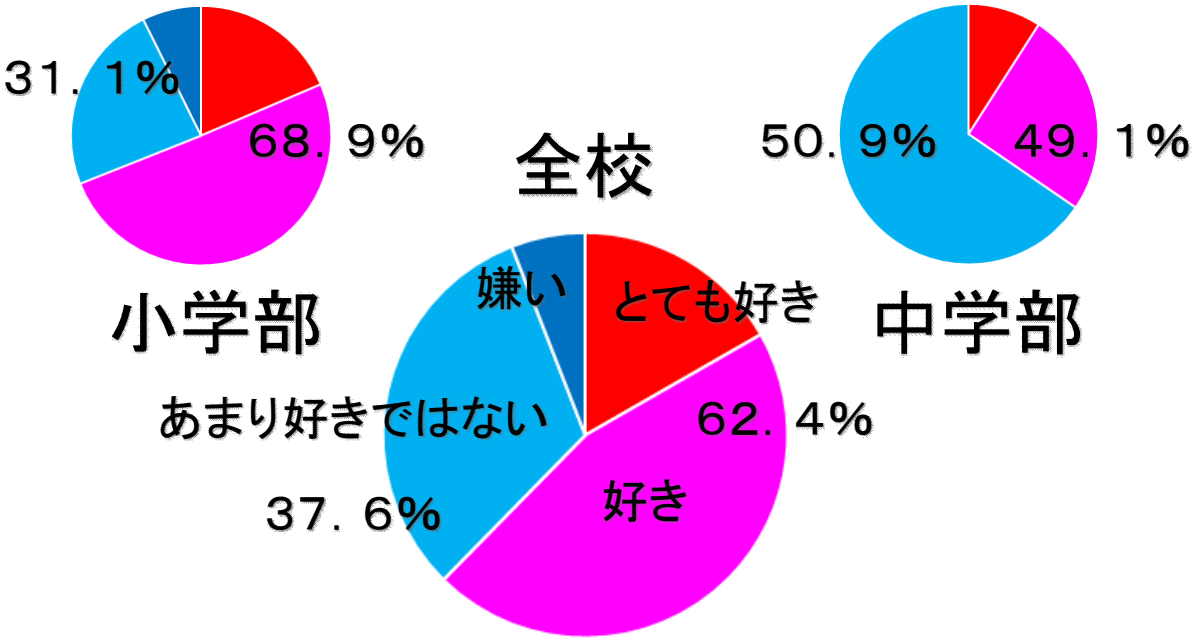
日本を題材にした教材

全校アンケートの実施



④ベトナムの印象

ベトナムに子どもたちが引っ越してきたとしたらどんな印象をもつか。ベトナムは好きですかという質問に対する子どもたちのアンケート結果は下のグラフである。細かく見ると学年が大きくなるにつれて否定的な回答率が高くなっている。しなしながら，研究主題にもとづき実践を重ねた結果，１年後には数値が肯定的な回答が高くなっていた。



3　まとめ

日本で生まれ育った我々にとって，日本という環境は当たり前であって全く違和感のない環境である。しかし，海外に行くと言語・文化・風習など異なる点が多々ある。違和感だらけの環境である。自分と違うから受け入れられないというのでは，生活していくことはできない。また，あなたの国のここがおかしいと，自分たちの生活を押し付けることも間違いである。まず，その環境を受け入れることから始めなければならないと考えている。帰国して，勤務校では特別支援学級の担任をしているが，特別支援を要する子どもたちに接する際，この考え方は非常に重要であると最近感じている。住んでいる国や人種，文化や風習といった違いがあっても，国際理解教育の根本にはやはり人間同士の関りがあり，理解しあうとは互いにまずはありのままの相手を受け入れることからスタートしていくことなのではないかと思う。

第３分科会　海外子女教育協議

小澤先生

シカゴは，アリゾナ中西部イリノイ州にある中西部最大の都市である。アメリカには，シカゴを含めて日本人学校が４校ある。また，補習校は８７校あり，派遣があるのはその内の３１校である。シカゴでは，日本人学校と補習授業校が，同じ校舎を使っている。場所は，市内中心部からは，車で４０分ほど離れた閑静な住宅街にある。補習授業校では，国語・算数・社会を中心に授業をしている。子ども達は，現地校の宿題や，習い事や，補習校の宿題を抱えて大変である。しかし，土曜に補習校に来ることを楽しみにし，日本の国際化をになう人材である。補習校は，景気に左右され，リーマンショック前は児童生徒は２倍いた。運動会は，幼稚園から高校まで全員で行い，会場は現地の高校を借り受けている。現地採用の先生は，土曜以外は他の仕事をしている。多くは，教員免許をもっていないし，もっている人でも指導したことがないので，授業研究会の充実に力を入れている。また，作文一貫指導に取り組んだり，英語教育に力を入れたりもしている。

シカゴでの３年間は，大変充実していた。子ども達との出会いや，熱い情熱をもって指導にあたっている現地採用の先生方との出会いを，これからも大切にしていきたい。

小野先生

ハノイ日本人学校での勤務を経験した。街中が，高層ビルの建築ラッシュとなっていた。学校では，日本の教育課程にのっとって行われているが，保護者の不安は日本の子どもと比べて学力は大丈夫かということであった。そこで，年に２回，４年生以上に学力テストを行っている。また，漢字検定や英語検定を希望する級で受けさせている。ベトナムは，文部科学省から世界では１５くらいある不健康地の１つに指定されている。それは，医療が遅れていることや，バイクが氾濫し排気ガスで空気が汚れていること，ごみを店の前に捨てて清掃業者が集めて回る衛生感覚の違いなどによるものと考えている。ベトナムの平均年齢は，何と３０歳以下で，とても若い国である。それは，ベトナム戦争でたくさんの犠牲を払ったからである。日本で言えば，５０年前くらいの戦後を抜け出したような状態ではないだろうか。子ども達は，ベトナムに対して，学年が上がるほど好きが減っていく。その国のありのままを受け入れ，違いを認めて仲良くしようとしていくことが国際感覚を育てるということであろう。

展示物

中国

MAP OF THE PEOPLE'S REPUBLIC OF CHINA 中华人民共和国地图

國旗小百科
國語
國語
數學

タイ

タイ文字Tシャツ
タイの地図がかいてあります。このTシャツは100パーツ(300円くらい)でした。

ブラジル

ブラジル
リオ・デ・ジャネイロ
サンバ
リオのカーニバル
イグアスの滝
Iguaçu Fall
アマゾン川
ピラニア

イグアスの滝
Iguaçu Fall
アマゾン川
ピラニア
BRASIL

スペイン

スペイン
バルセロナ
STOP
ONE WAY
colors
formes
paraules
LES TRAINS

アメリカ

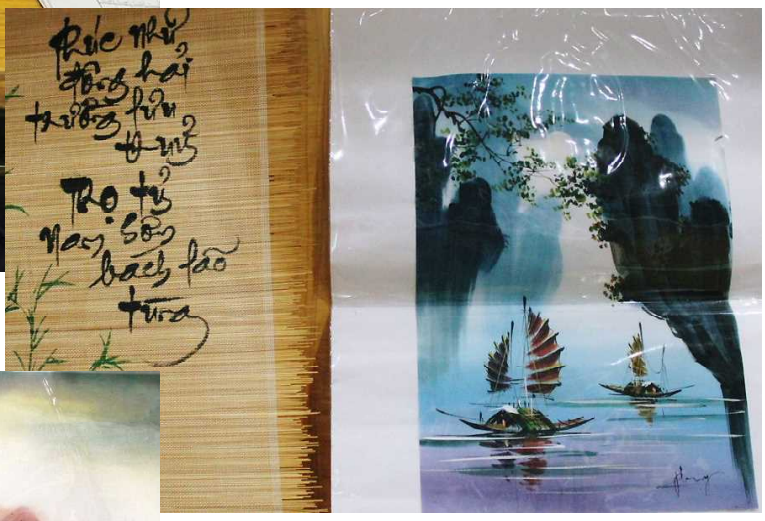
McGraw-Hill
READING
Topps
Baseball Cards
69¢

マレーシア

パティック
現地の教科書
マレーシア

コンパン
手作りの民族楽器
ピューター
（錫合金）
KL
INTERNATIONAL
AIRPORT

ベトナム



イラン

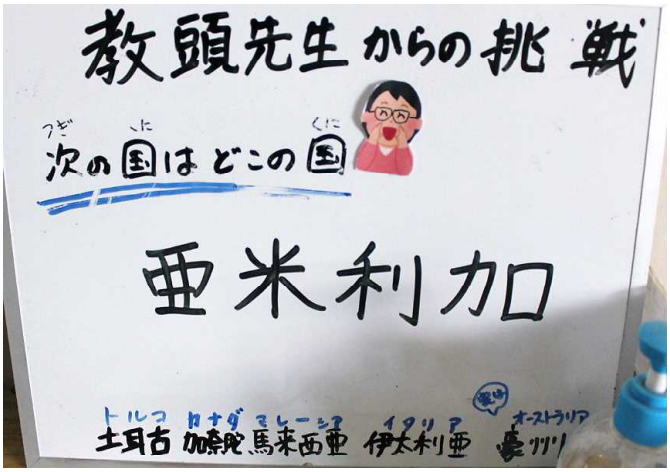
校内掲示

世界のじゃんけん
その1
インドネシア
インドネシアのじゃんけんは、手のかたちを ゾウ と
人間 と アリ の 3つの形でします。
かけ声は
Suit!
スート
ゾウ
人間
アリ
ゾウは、人間より強い
人間は、アリより強い
アリは、ゾウより強い
3かしょで 3かいずつ
3人以上で ちょうせん

世界のじゃんけん
ミャンマー
ミャンマーのじゃんけんは、体ぜんぶを使ってするよ。
JAPAN
MYANMAR
じゃんけん ホイッ で
すきな かっこうを しよう!!
鉄砲をかまえる
両手をこしにそうに
えものにおそいかかる
鉄砲
上官
トラ
3かしょで 3回ずつ
3人以上で ちょうせん

タイ
大西洋

毎月食育の日（19日）に「世界の料理」を給食に出しています。



カオパット・クン
国 タイ
メンバー
○金平 康太郎 服部 海成
○築澤 陽心 高田 澪
意味
○カオ…ごはん
○パット…いためる
○クン…エビ
タイの由来
国名はタイ民族名に基づくが原義は「大きな」と言う説もあるが現在は「自由」の意味があるという。旧名称のシャムは「浅黒い」という意味がある。東南アジアでは唯一欧米の植民地化を逃れ、独立を保った。
首都-バンコク
人口-6701万人
面積5.1万Km²
人口密度30.6人Km²
材料
お米(インディカ米)
エビ
卵
油
塩
作り方
インディカ種
ジャポニカ種
1.お米をとぎ、炊飯する。
2.エビの殻をむき背わたをとる。背わたが取れたら3等分にきっておく。
3.卵をわり、といておく。
4.フライパンを強火で熱する。
エビと卵をいれて
米について!
細長くねばりけの少ないインディカ米です。原産地のタイでこのパサパサパラパラした感じが好まれています。
世界いさん
アンコールワット
完成!
感想
ゴルートルカリ
作り方
できあがり!!

世界の国々
中村英治さんに
教えてもらった
ワシントンD.C.
バミュー
フロリダ半島
メキシコ湾
メキシコ
メキシコシティ
バハマ
ハイチ
キューバ
ドミニカ共和国
ジャマイカ
セントクリストファー・ネーヒ
アンティグア・バーブ
ベリーズ
ホンジュラス
ドミニカ
グアテマラ
エルサルバドル
ニカラグア
コスタリカ
パナマ
ボゴタ
コロンビア
ベネズエラ
ガイアナ
スリナム
仏領ギアナ
パラマリボ
ガラパゴス諸島
キト
エクアドル
ペルー
リマ
ブラジル
ボリビア
ラパス
ブラジリア
南アメリカ
パラグアイ
アスンシオ
イースター島
サンティアゴ
チリ
ウルグアイ
モンテビ
ブエノスアイレス
アルゼンチン
フォークランド(マルビナス)諸島
フエゴ島
サウスジョージア島
中村英治さん
美作市から来てくださいました。

世界の国
パンフレット
とうぞ手に取って
ご覧ください

外国の料理を作って 壁新聞 作りました
人生初のインディカ米
カオパット・クンとブルーベルかりは食べやすくて大人気!!
玉ネギのみじん切りにも初挑戦!
スパイスはこがさないようにじっくりと
パエリア
ゆっくり
メンバー
パエリアパンとは?
インディカ米とは?
食べた感想
おいしかったよ
パエリアの作り方

インドといえばやっぱコレ!
タージ・マハル
スパイス
インドのお祭り
インド人になろう!
カレーを食べよう!
インドの映画を見よう!
ナン

ブラジルのべん強をしたよ。

世界の料理特集
食育の日
アメリカ料理
アメリカの代表的な食べもの
とくちょう
量が多い
野菜が少ない
油分が多い
そのため、アメリカ人は日本人にくらべて太っている人がとても多い！
アメリカから日本にきたもの from USA
ファーストフード店
「ケンタッキー」や「マクドナルド」
スポーツ
「やきゅう」や「バスケットボール」
アメリカの大統領
（日本の総理大臣にあたります）
オバマさん
ハリウッド
映画をつくる中心地
HOLLYWOOD
自由の女神
世界遺産
46.5mもあります!!!

川東小学校
すすんで学ぶ子
思いやりのある子
たくましい子
心豊かで実践力のある児童の育成
国際理解教育

よめたら教頭先生にシールもらおう
世界の国々
国の名前が全部よめたらシール5まい
1、2年は20国でいいよ！
ぜんぶよめたら教頭先生にほうこく
5まいゲット
しめきり 月 で